

Improving every life

2021 3Mジャパングループ サステナビリティレポート

Growing our business by enabling action and impact on
some of humanity's greatest challenges.





初めに

編集方針

本レポートは、3Mで発行した『2021 Sustainability Report』から日本国内の、お客様・関連する企業の皆さま・事業所近隣の皆さま・そして社員など、多様なステークホルダーの皆さまに関わりの深い箇所の抜粋と、3Mジャパングループの2020年度のサステナビリティ活動に関する情報をわかりやすく開示し、活動の報告を通じてコミュニケーションを深めることを目的に発行しています。当社では、企業の責任とは様々なステークホルダーの期待に応えることであり、その目標はサステナビリティすなわち持続可能な発展への貢献にあると考え、タイトルを『2021 3Mジャパングループ サステナビリティレポート』とするともに、より多くの方々への迅速な情報提供を目指し、サステナビリティウェブサイトで情報更新をしていきます。

本レポートはPDF版として発行し、作成にあたりましては各種のガイドラインを参考にしながら、当社の独自性を考慮し編集をいたしました。グローバルにおける3Mのサステナビリティへの取り組み詳細は、『2021 Sustainability Report』をご覧ください。

社名表記および対象組織の範囲について

本レポートでは、3M社を中心とした企業の全体像を示す場合は「3M」、3M Company (米国) を「3M社」と表現しています。基本的に「3M」および「3Mジャパングループ」の取り組みを紹介していますが、「3M社」の取り組みについても記載しています。本レポートで使用しているデータが対象とする「3Mジャパングループ」は次の5社です。

- スリーエム ジャパン株式会社
- スリーエム ジャパン イノベーション株式会社
- スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社
- スリーエム フェニックス株式会社
- ケーシーアイ株式会社

対象期間

本レポートに記載されている数値データは、2020年1月1日から12月31日までの実績を基に作成しています。ただし、日本国内における活動内容については、一部2020年以前のもの、ならびに発行直近のものも含まれています。

※日本国内の環境パフォーマンスに関しましては、2020年1月1日から12月31日までの実績を基に、統合ISO 14001認証の対象事業所(本社、みなとみらいオフィス、札幌支店、仙台支店、東京支店、東京第二支店、横浜支店、浜松オフィス、名古屋支店、大阪支店、広島支店、高松オフィス、福岡支店、相模原事業所、スリーエムジャパン プロダクツ株式会社、ケーシーアイ株式会社 東京サービスセンター)のデータを公開しています。

コンテンツ

初めに P2

リーダーシップ メッセージ P3

会長 兼 最高経営責任者

バイスプレジデント アンド チーフ サステナビリティ オフィサー

スリーエム ジャパン株式会社 代表取締役社長

3M概要 P8

企業行動規範 P9

3Mバリューモデル P12

インパクトを推進 P21

Science for Circular／サイエンスで循環型経済に貢献

Science for Climate／サイエンスで気候変動に貢献

Science for Community／サイエンスでコミュニティに貢献

環境・健康・安全 (EHS: エンバイロンメンタルヘルス セイフティ) マネジメント P37

イノベーション マネジメント P45

調達基準 P54

私たちの製品 P55



リーダーシップ メッセージ

マイク・ローマン



パンデミックにより、
重大な課題解決に
おいてサイエンスが
重要であることが
再認識されました。

昨年は、様々なチャレンジに満ちた一年でした。3Mのバリュー（提供価値）、重点項目、世界で私たちが作り出そうとしている変化に改めてコミットしたときでもありました。歴史的にも前例のない状況で、3M社員が率先し行動してくれたことを誇りに思います。

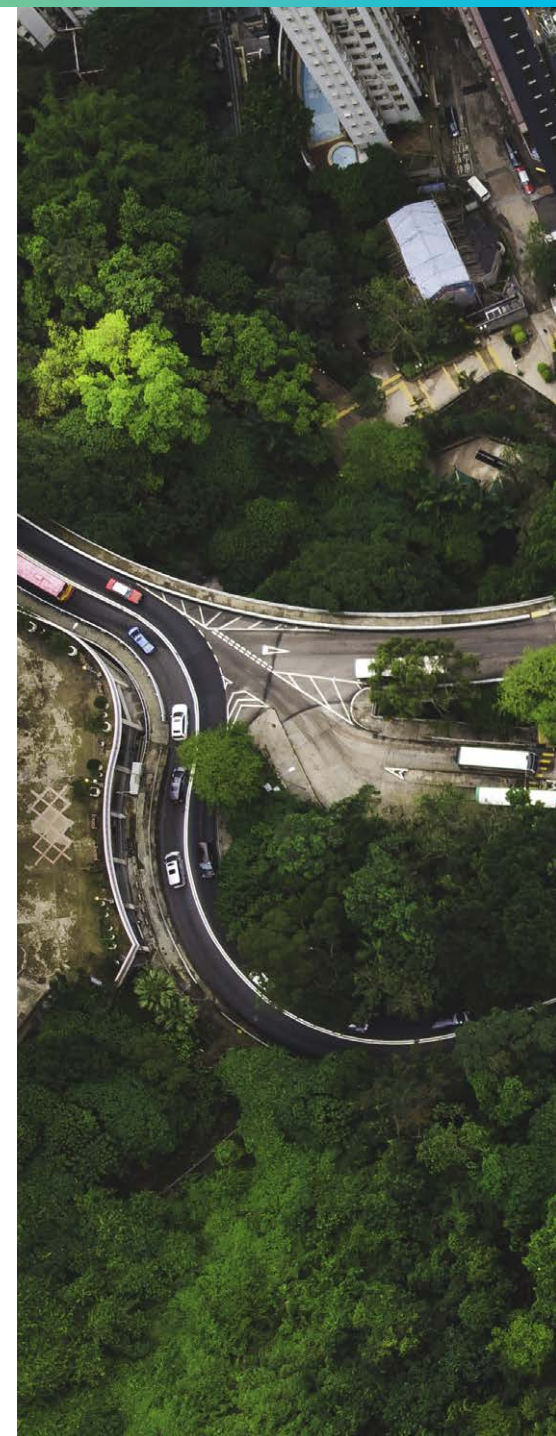
私たちはあらゆる角度から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）との戦いに対応しました。医療従事者や初期対応要員を守るための呼吸用保護具を20億枚以上製造したこともその一つです。ミネアポリスで起こったジョージ・フロイド氏の悲劇を受けて、当社がこれまで行ってきた社会的正義を前に進めるための活動を基盤に、社内およびコミュニティでダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包摂性）の改善のため意欲的な計画を立ち上げました。また、3Mの社員、ステークホルダー（利害関係者）および私個人にとって非常に重要なバリューであるサステナビリティへのコミットメントを前倒ししたことも同様に大切な対応です。

3Mはサステナビリティの取り組みを主導していくことにコミットしています。過去20年で温室効果ガス排出量を71.1%削減し、当社製造拠点の42.9%をゼロウェイスト（廃棄物ゼロ）に移行しました。30の研究所と建物を擁する3M本社（ミネソタ州セントポール）は100%再生可能エネルギー電源で賄われています。

2020年、3Mの製品は
お客様の排出量を
1,660万
トン分、回避する
ことに貢献



これは車360万台分の排出量を削減したことに相当します。





過去数十年の姿勢と変わらず、今後も率先した活動が続けていきます。年初に、3Mサイエンスを用いて、よりきれいな空気、より良い水質、そして廃棄物が少ない世界を形成していく上で重要な取り組みを発表しました。

3Mは世界中全ての事業所においてカーボンニュートラルを達成することにコミットしています。二酸化炭素排出量を2030年までに50%、2040年までに80%削減し、2050年までに100%カーボンニュートラルにすることを目指しています。気候問題の対策のために世界が必要とする改善スピードを加速化させるイノベーションで排出削減をけん引していきます。

**3Mは、新たな
環境目標の達成のため、
また製造工程の
継続的な改善のため、
今後20年間にわたり
約10億ドルを投資。**

さらに、水の使用量を2022年までに10%、2030年までに25%削減することを目指します。

年間の節水量

**25億ガロン
(95億リットル)**



2023年末までに水の使用量の多い当社製造拠点のすべてに最新の浄水設備を導入して、2024年までに本格稼働する予定です。これにより、製造過程で使用した水をより良い水質で自然に戻します。

これらの活動は、より力強い会社づくりをし、持続可能性の高い世界の構築を後押しします。3Mは、新たな環境目標の達成のため、また製造工程の継続的な改善のため、今後20年にわたり約10億ドル(約1,100億円)を投資します。

サイエンスが当社のサステナビリティゴールと社会的目標にエネルギーを注ぎます。CEOとして、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に対し3Mが継続的に支援すること、またサイエンスを用いて人々の生活をより良くするために引き続き取り組む決意であることを約束します。

マイク・ローマン

3M会長 兼 最高経営責任者



リーダーシップ メッセージ

ゲイル・シュューラー



**2020年、私たちは皆、
変化と課題を通じて、
本当に大切なことは
何なのか、根本的な
学びを得ました。**

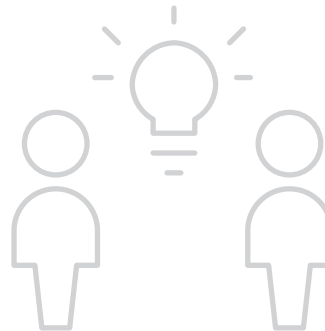
新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)が起こり、また世界中で発生している社会的正義を求める切実な抗議活動を目の当たりにし、私たちが進むべき道がはっきりと明確になりました。地球および地球上の人々の健康のために私たちはもっと多くのことを行っていかなければなりません。

3Mは、このような課題を受けて、サステナビリティに対するコミットメントを更に強化しました。2025年サステナビリティゴール(2025 Sustainability Goals)および活動の中核的な柱としている「サイエンスで循環型経済に貢献」「サイエンスで気候変動に貢献」「サイエンスでコミュニティに貢献」の各分野で大きく前進しました。循環型経済の推進のため、3Mはクローズド・ループ(再生材料を利用した閉じられた循環)生産を継続的に進め、新素材開発により当社が生み出す廃棄物総量を減らすと共に、同様の取り組みを行う他企業を支援します。当社とお客様の全体的なフットプリント(環境負荷)を削減するため、事業活動における工程を改善し、お客様と協働することで更に脱炭素化を進めました。サイエンスを通じて、よりポジティブな世界を創造することを目指し、パンデミック対策に貢献する

よう新たなアプローチとソリューションを生み出しました。また同時に3M社内に留まらず、広く社会的格差の問題に対して意味のある重要な行動を起こしました。

共に前に向かって進める

過去1年間、私たちが特に重きを置いたテーマは協働です。イノベーションを駆り立て、私たちの作り出すインパクトを拡大し、世界中の人々の暮らしをより良くするために、お客様、政府関係者、NGO、その他の企業と協業する機会を増やしています。



ここ1年であった主な協働例を幾つか紹介したいと思います。新型コロナのパンデミックに世界が対応する動きを3Mは支援しました——深刻な必要性のある製品の生産を加速的に増やし、他の企業、大学、NGO等と協働して確固とした世界的な対策を推進できるよう、3Mの持つ専門性とイノベーションを共有しました。同時に、プラスチック廃棄物の問題が増大していることを認識し、Closed Loop Infrastructure Fundへ再度投資し、リサイクル&循環型経済インフラ構築の推進を支援しました。また、SDGアンビションの推進のため、国連グローバルコンパクト(UNGGC)とパートナーシップを発表しました。SDGアンビションは、企業が国連持続可能な開発目標(UN SDGs)を中核事業の中に組み込むよう支援し、SDGs達成を加速化させるプログラムです。多様性のあるグローバルメーカーとして、各プログラムのパートナーと協働し、プログラム開発とサステナビリティゴール設定における当社の主導者としての体験を共有しています。



エクイティとインクルージョンを 向上させる

社会的正義に対する行動を拡大する必要があるとの認識のもと、どうすれば私たちが社内および私たちを取り巻くコミュニティにおいて人種差別撤廃とインクルージョンの動きに力を与えることができるかを模索いたしました。そして第一歩として、法的正義、人種差別撤廃、ヒーリング（修復）に主に取り組む団体を支援するため、3M Foundation Social Justice Fund（3M基金社会的正義ファンド）を設立しました。さらに、私たちのコミュニティにおいて変革性を推進している多様性に富む様々なリーダーや団体とともに、3M Community Coalition（3Mコミュニティ連合）を形成しました。この連携から3Mが社会的正義の課題解決提供する5千万ドル（55億円）の初出先に関する諮問を得る計画です。このような活動がポジティブな変化をもたらすことを期待するとともに、私たちの約束を果たし、ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包摂性）のある会社としての可能性を実現するためにもっとやらなければならないことを認識しています。

3Mは、喫緊の課題に対応し、
インパクトを最大限に
作り出すために

**5,000万ドル
（55億円）**

の資金拠出を表明。



2021年、行動を加速化する

2020年に私たちの活動で得た勢いに乗り、2021年はエネルギーなスタートが切れました。2月には、新たな環境目標を前倒しするため、今後20年にわたって約10億ドル（1,100億円）を投じることを発表しました。当該目標では、2050年までにカーボンニュートラルを達成、拠点での水使用量を25%削減し、製造過程で使用した水をより良い水質で自然に戻すことを目指しています。加えて、ポーランドにある全ての3M拠点、オンタリオ州ロンドンにある3Mカナダの本社も、米国のグローバル本社同様、100%再生可能エネルギー電源で施設の電気を賄うようになったことを誇りに思います。このような事業所や本社での動きは、2050年までに世界中の事業活動を100%再生可能エネルギーにシフトするという3Mのコミットメント実現にむけて進展させるものです。

2021年の残りの期間も、サステナビリティとポジティブインパクトを推進することが社員、事業活動、コミュニティ、お客様、サプライヤーのための中核的な注力事項であることは変わりません。この世界の最大課題への対応に対し継続的にコミットしてくれている世界中の3M社員と、持続可能なソリューションを実行に移すサポートをしてくださっているお客様に感謝いたします。

より持続可能でレジリエンス（回復力）のある世界の構築に向けて、お客様、政府関係者、NGO、その他企業の方々と協業し、進捗を共有し、協力していくことを楽しみにしています。

ゲイル・シューラー

バイスプレジデント アンド
チーフ サステナビリティ オフィサー





リーダーシップ メッセージ

宮崎 裕子



3Mジャパングループは、
人々の暮らしをより
豊かにするために、
「サステナビリティ経営」
に継続して注力
していきます。

2020年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大し、今年に入りまして未だに収束の兆しが見えていません。一日も早い事態の収束を祈念するとともに、治療や感染拡大の防止に尽力されている医療従事者の方々と始め、エッセンシャルワーカーとして日本のインフラや最前線で活動する方々に心より感謝申し上げます。

6月に社長に就任するまで、法務という立場から、ガバナンスやコンプライアンスなど、経営や事業活動に関与してきました。世界中で人々の価値観や生活様式に大きな変化が生じている昨今、変化の多い状況においても人々の暮らしをより豊かにするために、今後は長期的な価値創造を重視し、「サステナビリティ経営」に継続して注力していきたいと考えています。

3Mのサステナビリティへの 考え方と活動

世界中で環境分野について取り組まれており、日本政府もカーボンニュートラルに向けての方針を表明するなど、SDGsやESGの推進をさらに後押しするために積極的な方策を打ち出しています。

3Mでは、サイエンスの力でサステナビリティを高め、継続していくという活動において次の3つをテーマとしています。

1. サイエンスで循環型経済の推進

デザインソリューションで、より少ない素材による世界循環型経済を進め、調達から販売に至るまでのトレーサビリティを明確にして事業における循環型経済に寄与しています。

2. サイエンスで気候変動に貢献

イノベーションでカーボンニュートラルを目指し、環境負荷を軽減することで課題を改善しています。一例として、スリーエム ジャパンでは遮熱性のある3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルムの販売を通じて、お客様のエネルギー使用削減に寄与しています。また、環境に配慮した製品やサービスを「環境ソリューション製品」として開発・製造・販売しています。製造現場からオフィス勤務社員まで全社をあげて環境保全活動を実施しており、優秀な活動には環境活動賞を授与しています。

3. サイエンスでコミュニティに貢献

3Mはイノベーションの未来には、次世代の教育が重要であると考え、3Mジャパングループでは、次の活動を行っています。

- 1996年より、子供に科学への関心を深めてもらうため、「3Mウィザードプログラム 子供科学実験室」を開催
- 家庭で子供に科学の魅力を探索してもらうため「サイエンス アット ホーム (Science at Home)」の動画コンテンツの制作と無料公開
- 2018年から女子中高生・女子学生に理工系分野に関心を持ってもらい、将来の選択肢の拡大を支援する目的で、内閣府男女共同参画局が中心に実施している「リコチャレ (理工チャレンジの略)」に参画
- 震災復興支援を含む、スリーエム仙台市科学館にネーミングライツを通じた継続的な支援

3MのDE&Iへの考え方

3Mは、ダイバーシティ、エクイティ(公平、平等)とインクルージョン(DE&I)をコアバリューの一つとして大切に考えており、社会の課題を迅速に解決するためのイノベーションを進めるために、多様性は不可欠であると考えています。多様な価値観を持つ社員が、ありのままの自分(True Selves)で、サポートされている、受け入れられていると感じられるような風土をさらに醸成し、社員のエンゲージメントを高めたいと考えています。

今後の3Mジャパングループでの 取り組み方

3Mジャパングループにとって、サステナビリティとは、事業活動そのものです。社会の課題に対応し続けている数々のソリューションは、3M独自の自主性を重んじる環境が育んだ自由な発想と創造力、長年にわたり培ってきた多様な技術とノウハウ、開発力とがあいまって生まれたものです。イノベーションや持続可能性を常に考慮して生まれた製品はエレクトロニクスからヘルスケアまで多岐の分野にわたります。今後もサイエンスで事業に励み、お客様、パートナー、コミュニティなどあらゆるステークホルダーと社員とがともに協働することで、さらなる持続可能な未来に向けて革新を続け、私たちの社会における責任と役割を果たすとともに重要な課題の解決を加速する活動を続けてまいります。

宮崎 裕子

スリーエム ジャパン株式会社
スリーエム ジャパンイノベーション株式会社
スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社
スリーエム フェニックス株式会社
ケーシーアイ株式会社
代表取締役社長



3M概要

私たちのビジョン

3Mのテクノロジーはお客様のビジネスをさらに前へ進め、
3Mの製品は毎日の暮らしをより快適にし、
そして3Mのもたらすイノベーションは明日をもっと豊かにします。



売上
322億ドル



ビジネス展開
約**200**か国



連続配当
100年以上



ダウ・ジョーンズ工業
株価平均を構成する
30
銘柄の1社



R&Dに
18.8億ドル
を投資



特許
12.5万件以上



4つのビジネス
グループで横断的に
応用されている
51
のテクノロジー
プラットフォーム



800
を超すブランド



世界中に
96,100名
の社員



拠点数
200か所以上



世界中に
50か所以上の
カスタマーセンター



55,000
を超す製品数

3Mジャパングループ

創業
1960年2月23日

資本金
9億6,000万円

2020年業績売上高
280,219百万円

製造事業所
5か所



企業行動規範

エシックス(倫理)とコンプライアンスを 最優先する

私たちのコミットメント

行動規範は3Mのバリューモデルの一部をなし、3Mを長期的な成長に向けたポジションに位置付けています。私たちのバリューは、ビジネスグループや地域を超えて3Mの社員として私たちを結び付けます。

優良企業は、そのお客様、株主、社員、コミュニティの信頼の上に築かれています。当社は何十年もかけてそのような信頼と倫理的企業の評判を獲得し、3Mにおいては誰であっても勝手にその評判を傷つけることはできません。

世界中70か国以上で

96,100

人の社員たちに共通して
適用されている行動規範
があります。

私たちの行動規範は、3Mのコンプライアンス指針を要約した内容で、全ての拠点で常時、正しくビジネスを行う方法の意識を高めています。行動規範は私たちにとっての指針であり、質問に回答し、正しい選択について迷ったときに方向性を与えてくれます。

**3Mの行動規範は私たちが
仕事に取り組む際に求められる
姿勢が定義されています。**

- 善良であること
- 正直であること
- 公平であること
- 忠実であること
- 正確であること
- 敬意を持つこと

3Mの全てのスーパーバイザー、マネジャー、その他リーダーを含む社員は、各業務に適用される倫理的、法制上、政策上の要件を理解、遵守し、法律または行動規範に違反している疑いのある事案について報告する責任があります。質問をし、懸念を提起することを奨励するインクルーシブな職場環境を作ることにリーダーは説明責任を持ちます。

行動規範は25か国語で用意され、社員だけではなく関係するステークホルダーとビジネスパートナーにも求められている行動を明確に規定しています。全ての新入社員には行動規範の冊子が提供されます。

**行動規範は私たちの
指針であり、質問に
回答し、正しい選択に
ついて迷ったときに
方向性を与えてくれます。**

3M Science.
Applied to Life.™

Be 3M

- ☑ Be Good
- ☑ Be Honest
- ☑ Be Fair
- ☑ Be Loyal
- ☑ Be Accurate
- ☑ Be Respectful

Global Code of Conduct

懸念点を報告する： “Speak Up (声をあげる)”

3Mの行動規範とバリューは、3Mのために行動する全ての人の責任です。当社の社員には、経営層、3Mのエシックス&コンプライアンス部門、3Mの法務部担当者、[3MEthics.com](https://www.3methics.com)、3Mの人事担当者、3Mコーポレート監査部、または取締役会の監査委員会に質問したり、懸念を報告することが奨励されています。私たちの力強い倫理のカルチャーは社員が日々、正しい選択をすることを義務付け、実施できるよう権限を与えています。私たちは、社員が会社のことを考え、正しい行動を望むことを知っています。四半期に一度のペースでエシックス&コンプライアンス部門は、業務の中で、また意思決定の中で期待以上に3Mの行動規範とバリューを体現した世界中の社員を表彰しています。このLiving the Code Awardの受賞者には、バイスプレジデント兼最高エシックス&コンプライアンス責任者から、刻印されたクリスタルガラスの地球儀とともに手紙が贈られます。

エシックス&コンプライアンス部門には、全ての業務上の行為に関する懸念事項の報告をレビューする責任があります。レビュー後、エシックス&コンプライアンス部門は、報告されたどの事案に調査が必要かを判断します。調査が必要だと判断されれば、適切な調査のリソースが割り当てられます。事実認定された事案については、懲戒処分が取られることもあります。懲戒の種類は様々で、戒告から出勤停止、解雇まで過去の同様の違反例に沿って判断されます。事実認定された違反事案一件につき、複数名が懲戒処分を受けることもあります。3Mグローバル全体の申し立て件数と懲戒処分件数のグラフでは、2018年、2019年、2020年に3MEthics.comを通じて寄せられた業務上の行為に関する報告状況が示されています。



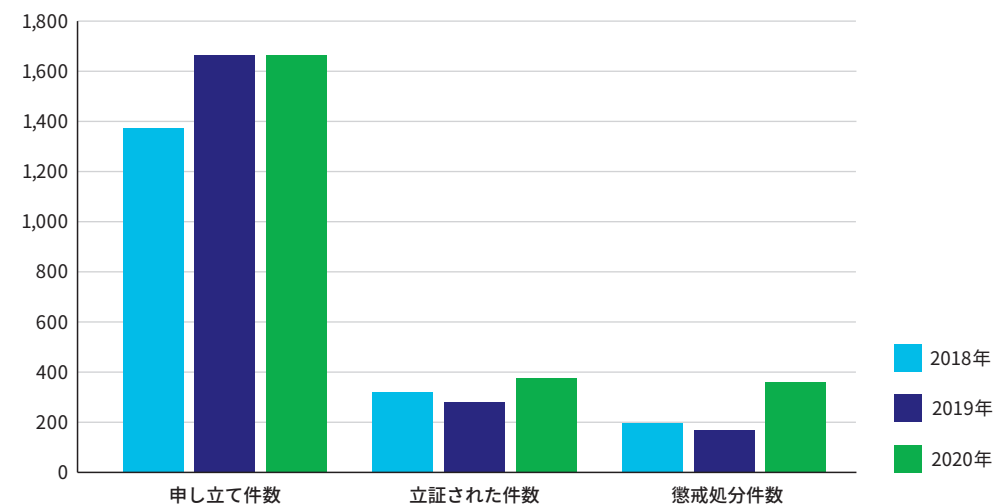
エシックス&コンプライアンス部門は調査事案管理システムをメンテナンスし、調査を行う広範囲にわたる3Mのファンクションから提供されるメトリクスを報告しています。この形式により、グローバル全体で報告される懸念事項の頻度や種類について、より総合的な見方ができ、3Mの持つ健全なSpeak Upカルチャーがより正確に反映されるようになっています。当該データを使ってリソースと集中する戦略の優先順位が決められています。

3Mは全ての社員に対し、懸念事項や行動規範違反の疑いについてSpeak Upすることを奨励しています。頻繁に用いられているフレーズを入れたSpeak Upポスターが引き続き、グローバル全体で広く活用されています。



3Mグローバル全体の申し立て件数と懲戒処分件数

合計数*



※事案対応の進捗により、前回の報告数字と現在のチャートの数字が異なる場合があります。

3Mの報復行為禁止のプロセス

3Mは、業務上の行為に関する懸念事項を提起したり、会社による調査に協力した人に対する報復行為を禁止しています。報復リスクの監視のため、調査完了後、コンプライアンスの調査担当者が通告者に数回連絡を取り、形式を問わず報復を受けていないか確認するため話し合いをします。この確認は、匿名ではない通告者に対しては電話またはメールで行われ、3MEthics.comを使って匿名で懸念事項を報告している者には、匿名性の保持のため3MEthics.comを通じてフォローアップ対応が行われます。

通告者が報復の懸念を訴えた場合は、調査チームが別途、調査を開始、または通告者側を確

実に保護するための別のアクションが取られます。3Mは報復行為に対し、確固とした姿勢を取っており、その内容は報復禁止ポリシーおよび **3M's Employee Obligations and Reporting Principle** (3M社員の義務と報告の指針) に反映されています。

アセスメント

3Mのエシックス&コンプライアンス部門により、毎年、定期的にコンプライアンスと贈収賄防止の評価が様々な3M子会社および事業運営単位で行われています。評価内容には、金融取引、コンプライアンス記録、評価対象組織の社員をサンプリングして選ばれた社員との面談、選定されたビジネスパートナーのレビューが含まれます。



腐敗防止へのコミットメント

3Mの行動規範は、適用される全ての贈収賄防止法(米国海外腐敗行為防止法、英国贈収賄禁止法、ブラジル企業腐敗防止法など)および3Mが事業を行う地域の現地法の遵守を定めています。当該規範は、3M社員に加え、当社のビジネスパートナーにも適用されます。さらに、3Mの贈収賄防止指針(3M's Anti-Bribery Principle)と贈収賄行為禁止ポリシーと手続きが全ての社員に伝達されています。贈収賄および不正行為を回避するためのトレーニングは、生産職を除く大半の社員——特に、法務、監査、営業、マーケティング、輸出、国際貿易を含むリスクが高いと想定されるポジションにある社員の受講が必須となっています。バイスプレジデント兼最高エシックス&コンプライアンス責任者が取締役会の監査委員会と3Mビジネスコンダクト委員会に対し四半期ごとにコンプライアンス活動について状況報告をしています。

また、不正行為防止に対する3Mのコミットメントは、第三者仲介業者(TPI)とその他のビジネスパートナーの管理にも反映されています。3Mは、取引規模、関係性の種別、政府との関わり、地理的場所などを含むリスク要因に基づいて、第三者のデューデリジェンスレビューを行っています。当該レビューの結果、特定されたリスクがあれば、具体的に、トレーニング、関連する契約条件の追加、その他のリスク軽減の統制策などのアクションを取って対応します。3Mは、リスクの存在が大きすぎて適切に軽減することができないと判断した場合、ビジネスパートナーとの関係を終了させることもあります。

揺るぎない誠実さに対する
私たちのコミットメントは、
上層部を起点とした
約束事であり、私たちの活動
全てにおいて明確です。

マイケル・デュラン

3Mバイスプレジデント 兼 最高エシックス&コン
プライアンス責任者



3M

3M Ethics & Compliance

非倫理的な行動 - 報告する義務があります。 عبر عن رأيك! **Tala ut!**

ROZMAWIAJ Z NAM! Çekinme Söyle! Prehovorte! **Speak up!** Высказывайте сомнения! **Spregovori** אל תחשו לדבר! **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

Parla apertamente **ROZMAWIAJ Z NAM!** **Çekinme Söyle!** **Prehovorte!** **Speak up!** **Высказывайте сомнения!** **Spregovori** **אל תחשו לדבר!** **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

Progovori **Fale!** **Vorbeste** **Pozovite** **HAZLO SABER!** **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

Expriemez-vous **Progovori** **Fale!** **Vorbeste** **Pozovite** **HAZLO SABER!** **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

Говори открыто **直言不讳!** **Ungkapkan!** **Speak up!** **Высказывайте сомнения!** **Spregovori** **אל תחשו לדבר!** **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

Hãy lên tiếng! **直言不讳!** **Ungkapkan!** **Speak up!** **Высказывайте сомнения!** **Spregovori** **אל תחשו לדבר!** **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

อยากระเบียบรายงานพฤติกรรมผิดจรรยาบรรณ **直言不讳!** **Ungkapkan!** **Speak up!** **Высказывайте сомнения!** **Spregovori** **אל תחשו לדבר!** **NGRIJE ZËRIN** **Sprechen Sie mit uns** **Sprech**하하게 말하기! **Tala ut!**

Be 3M

Speak up.
Ask a question.
Raise a concern.

Go to [3MEthics.com](https://www.3methics.com)



3Mバリューモデル

私たちのコミットメント

3Mは、110年以上にわたり、サイエンスと新規分野の探求に専念し、世界規模の課題に取り組み、お客様のためのソリューションを開発してきました。私たちの「バリューモデル」は、いかにお客様や株主、ステークホルダーのために、他社にはない差別化された価値を生み出していくかを描く、青写真となるものです。世界中で活用されている当社のバリューモデルには、3Mの「ビジョン」、「強み」、「重点項目」、「バリュー」という4つの要素が含まれています。

- 私たちの「ビジョン」は、当社が行うすべてを推進する原動力です。パーパスドリブン(自らの存在意義に突き動かされ)であり、パフォーマンスドリブン(業績に導かれる)な企業として、全ての人の暮らしを良くするために、3Mサイエンスを応用することを約束します。
- 私たちの「強み」は3Mの基盤を成すものです。この基盤があるからこそ、当社は各活動を単純に組み合わせた集合体よりも会社全体としての強さが一層増強されます。
- 私たちの「重点項目」は当社の成長手段を示します。これらは当社を長期的な成長と成功のために適切に位置付けるもので、どのようにして絶えず進化し、自らの基盤のもとに積み上げているかを表しています。
- 私たちの「バリュー(価値)」は当社を導くものです。バリューにより私たちはOne 3Mとして団結し、その価値はビジネスグループ、ファンクション、地域間で共有されています。サステナビリティは、バリューモデルで優先される

3つのバリューの1つであり、製品、製造プロセス、および新技術における目的主導のイノベーションにおいて重要な役割を果たします。

私たちのビジョンは、会社として私たちを動かす原動力となり、私たちの行動を導きます。すなわち、私たちが何をするか、どのように行か、そしてどこで行くかという3つに指針を与えます。私たちは日々、テクノロジー、製品、イノベーションを活用して、全てのビジネスをさらに前へ進め、毎日の暮らしをより快適にし、明日をもっと豊かにします。

私たちのバリュー

私たちのバリュー — ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公平性)、インクルージョン(包摂性)。サステナビリティ。3M行動規範。 — は3Mの社員として私たちを結びつけ、世界中で共有されています。バリューは、一つひとつのアクションで成長、発展、レピュテーション(評判)、インパクトを推進するためにすべての社員がどのように行動すべきかを示す総体としての究極的な目標です。当社のバリューは、お客様、投資家、社員からの期待と合致しています。



ダイバーシティ(多様性)：今後もダイバーシティを構築し続けます。多様性のある会社は、創造性とイノベーションがより豊かになります。

エクイティ(公平性)とインクルージョン(包摂性)：私たちはダイバーシティを有するにとどまらず、3Mを可能な限り最もインクルーシブな企業にします。ダイバーシティがあることだけで良しとせず、エクイティとインクルージョンを会社の仕組みに組み込み、より多くの声を俎上に載せていきます。

サステナビリティ：当社は何十年にもわたりこの分野の先駆者であり、製品とオペレーションを通じて更にリーダーシップを拡大するようあらゆる面で取り組んでいます。

ビジョン

3M Technology Advancing Every Company
3M Products Enhancing Every Home
3M Innovation Improving Every Life

強み

- 🧪 テクノロジー
- ⚙️ ものづくり
- 🌐 グローバル展開
- 3M ブランド

重点項目

- 📁 ポートフォリオ
- 🔄 業務の変革
- 💡 イノベーション
- 👥 人財と企業文化

バリュー

ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン
サステナビリティ
3M行動規範



戦略的サステナビリティ フレームワーク

当社の企業ビジョンにおいて究極的に目指すところは、すべての人の暮らしを良くすることです。私たちのバリューとともに、このような基本原理は、戦略的サステナビリティフレームワークを通じて、サステナビリティへの私たちのアプローチを推進し、特徴付けています。このフレームワークは、私たちが最大のインパクトを生み出すことができる分野に3Mが注力できるよう方向づけます。

当社は明確なコミットメントを設定し、私たちのサイエンスに対する熱意をもとに、高い志のある長期的戦略を策定しています。3Mにとって最も重大で、地球と地球に住む人々によって非常に重要な課題に対処するためにサイエンスに基づくアプローチを用いていきます。当社はグローバル展開と多様なテクノロジーを基盤に3つの優先項目に注力しています。



Science for Circular サイエンスで循環型経済に貢献

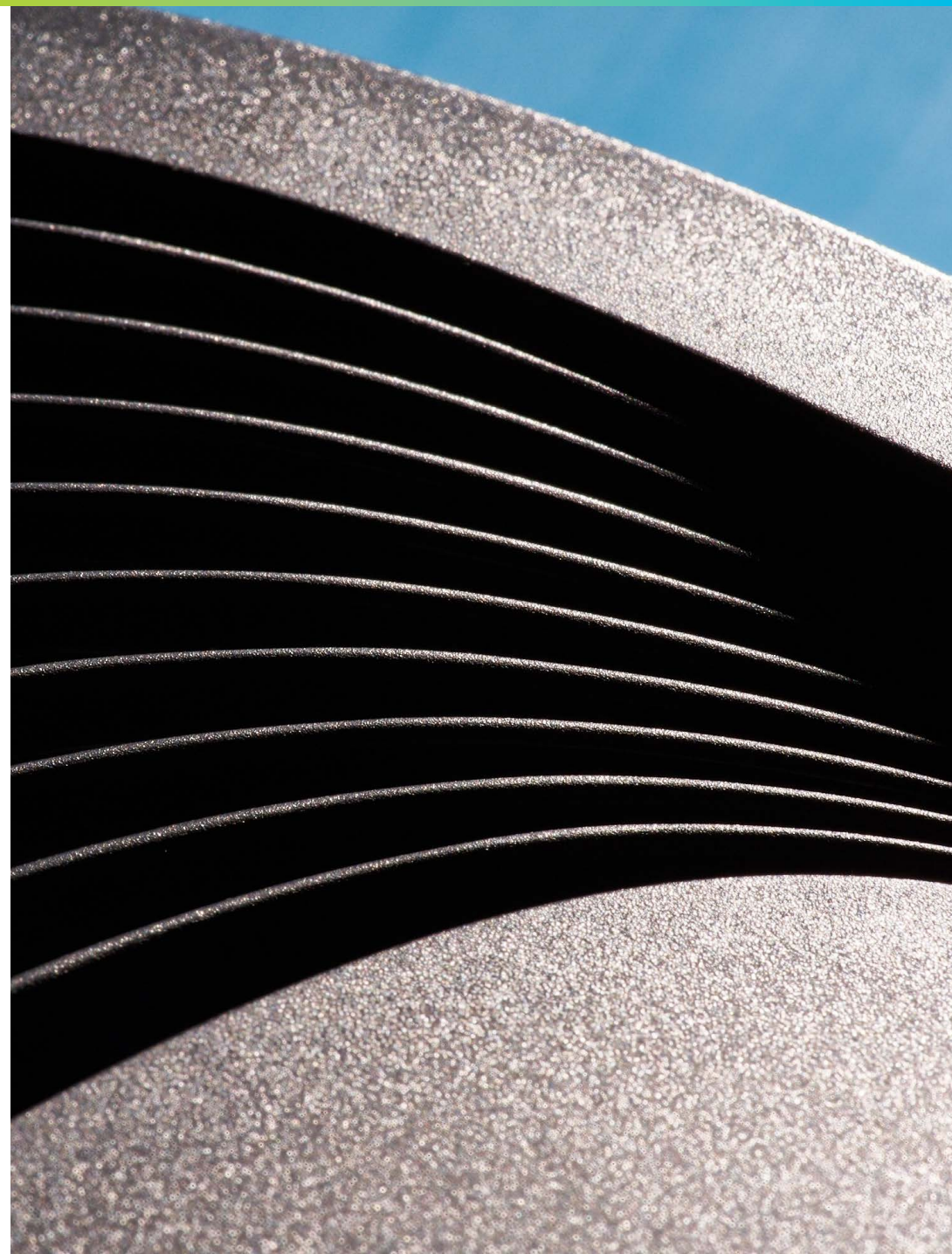
少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。

Science for Climate サイエンスで気候変動に貢献

産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。

Science for Community サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。





グローバルの活動

戦略的計画やコラボレーション、環境および社会的目標の設定、そして報告に関しては、社会、経済、環境面での世界規模の重大課題を理解するために、社内外の意見や情報を求め、参考にしています。

ステークホルダー エンゲージメント

重点分野に関する3Mのステークホルダーエンゲージメント戦略は進化し続けています。理解を深め、意識を高め、技術的なインプットと専門知識を求め、コラボレーションと戦略的パートナーシップの可能性を評価するため、私たちは常にステークホルダーに目を向けています。彼らの助言と専門知識が私たちを導いてくれると信頼しています。ステークホルダーエンゲージメントは、3Mのバリューに根差した、率直で偽りのない対話に基づくべきであり、戦略的重点事項の展開に資するべきであると考えています。

ステークホルダーエンゲージメントは、地域、種類、部門によって大きく異なります。例えば、マテリアリティ(重要課題)に基づいた多様なコンテンツを用いてサステナビリティコミュニケーションやイベントを行うことで、世界中で3M社員のエンゲージメントを図っています。

マテリアリティ評価

3Mは、2014年から隔年で、独立した調査コンサルティング会社であるGlobe Scanに委託し、重要な問題に関するステークホルダーの視点をよりよく理解し、当社のレピュテーション(評判)とリーダーシップの機会を評価するよう取り組んでいます。

2020年評価では、3Mのサステナビリティ戦略と、その3つの柱である「サイエンスで循環型経済に貢献」、「サイエンスで気候変動に貢献」、「サイエンスでコミュニティに貢献」に対するステークホルダーの認識を調査しました。ステークホルダーには、お客様、サプライヤー、NGO、企業/民間セクター、学术界、コンサルタント、政府、メディア、金融、業界団体、シンクタンクが含まれ、それらは3Mの4つのビジネスグループとすべての事業地域を代表するよう構成されました。同時に、3Mは社内のオンラインの社員調査を通じて同様の評価プロセスを実施しました。詳細については、[グローバル版の特集記事「Stakeholders weigh in on our Sustainability Framework」](#)を参照してください。

GlobeScanの評価に続いて、ステークホルダーからのインサイトとインプットを分析し、サステナビリティ優先項目マトリックスを作成しました。このマトリックスはまた、私たちのサステナビリティゴールが、17の持続可能な開発目標(SDGs)を含む国連の持続可能な開発アジェンダとどのように一致しているかを示しています。

各優先項目は、重要性和レピュテーションに基づいて3つの階層のいずれかに分類されます。

- ① **Tier 1** : 潜在的なインパクトが最も大きい最も重大な問題
- ② **Tier 2** : 潜在的なインパクトが大きい重要な問題
- ③ **Tier 3** : 重要度の平均レベルの問題

[優先項目マトリックス](#)を参照



3Mサステナビリティ優先項目マトリックス

優先項目と階層		グローバルの活動	目標とコミットメント	関連するSDG
Science for Circular サイエンスで循環型経済に貢献	プラスチック／包装 廃棄物 ①	循環型経済のための取り組みを支えるため、プロセスの最初から、使用後にリサイクルできるように梱包材を選択し、土壌や河川への廃棄が生じないようにしています。また、再生材を増やし、包装材のリサイクルを容易にし、必要に応じて再利用可能な包装を推奨し、再生可能材料の使用を増やしています。	3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。 ^{※1} 2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で10%削減する。 2025年までにバージン(未使用)の化石資源由来のプラスチックへの依存度を1億2,500万ポンド削減する。 ^{※3}	12 つくる責任 つかう責任  12.5
	有毒物質の蓄積 ①	製品の安全性、品質、ステewardシップは、「製品の安全性、品質、ステewardシップの原則」で概説されているように、3M製品の設計、製造、マーケティング、販売において常に主要な考慮事項である必要があります。 3Mの化学物質管理ポリシーは、3Mとそのステークホルダーの変化し進化する価値観を反映しています。当社の製品の環境、安全、衛生の属性を継続的に改善するために、3Mは、製品および製造プロセスでの使用が制限または特定の管理措置の対象となる化学物質を定めています。	3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。 ^{※1}	3 すべての人に 健康と福祉を  3.9
	持続可能な製品／ サービスの限定的な 利用可能性 ①	2019年に、3Mの多様なグローバル製品の生産工程に持続可能性を組み込むサステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を発表しました。ライフサイクル全体を通じて考慮する事項には、再利用性、リサイクル可能性、廃棄物の削減、省エネルギーと節水、製品に適した再生可能材料の責任ある調達または使用が含まれます。	3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。 ^{※1}	12 つくる責任 つかう責任  12.2, 12.5 8 働きがいも 経済成長も  8.4 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう  9.4



優先項目と階層		グローバルの活動	目標とコミットメント	関連するSDG
Science for Circular サイエンスで循環型経済に貢献	水質汚染 ①	私たちは当社の生態学的および倫理的責任を重んじ、事業を行う地域社会およびその枠を越えた地域社会における水質と水の利用可能性を維持および改善することに以前より取り組んできました。 2021年、3Mは、新しい環境目標を加速するために、今後20年間で約10億ドルを投資する予定であると発表しました。専門知識と高度な技術を駆使して、使用する水から不純物を取り除き、製造工程で使用した後、さらに水質を向上させて自然に戻します。	3Mの世界中の製造工程において、2030年までに自然に戻す水質を向上させる。まずは、米国で水使用量の多い製造拠点に最新の浄水設備を導入し、2024年末までに稼働させることに注力する。 ^{※1}	 6.3
	製造／オペレーション による廃棄物 ②	私たちは、より少ない材料でさらに役立つソリューションを設計し、世界の循環型経済を推進していく上で、再生可能材料および再生資材、水、パッケージ、廃棄物を注意深く評価する責任があると考えています。 当社は、可能な限り、事業における副産物およびその他の余剰材料を削減、回収、再利用、およびリサイクルします。それができない場合は、責任を持って廃棄物を処分します。	2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。 2025年までに30%以上の製造拠点で埋め立て廃棄物ゼロ（のステータス）を達成する。	 12.5
	利用可能な淡水の 不足 ②	2021年、3Mは、施設での水の使用量を25%削減するなど、新しい環境目標を加速するために、今後20年間で約10億ドルを投資すると発表しました。 水ストレスを抱えた地域にある3Mの各拠点は、その水使用と関連するビジネスリスクと影響を理解する必要があり、周辺地域への潜在的な影響を理解するために現地の水関連リソースと協力する必要があります。	世界的な水の使用量を売上対比で次の量削減する。2022年までに10%、2025年までに20%、2030年までに25%削減する。^{※1, ※2} 2025年までに3Mが製造活動を行っていて水ストレス（日常生活に不便のある状態）や水不足にあるコミュニティの100%と協力して、コミュニティ全体規模の水管理への取り組みを行う。	 6.4, 6.B
	原材料の不足 ②	2019年に、3Mの多様なグローバル製品の生産工程に持続可能性を組み込むサステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を発表しました。ライフサイクル全体を通じて考慮する事項には、再利用性、リサイクル可能性、廃棄物の削減、省エネルギーと節水、製品に適した再生可能材料の責任ある調達または使用が含まれます。 私たちはサプライヤーと協力して、3Mのサステナビリティ・バリュー・コミットメントを支えるソリューションを加速するよう取り組みます。	2025年までに対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。 3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。^{※1} 2025年までにバージン（未使用）の化石資源由来のプラスチックへの依存度を1億2,500万ポンド削減する。^{※3}	 12.2  15.2



優先項目と階層		グローバルの活動	目標とコミットメント	関連するSDG
Science for Climate サイエンスで気候変動に貢献	気候変動 ①	私たちは、事業を脱炭素化し、気候ソリューションを加速し、環境フットプリントを改善するためのイノベーションに取り組んでいます。 2021年、3Mは、2050年までに事業活動におけるカーボンニュートラルを目指して、新しい環境目標を加速するために、今後20年間で約10億ドルを投資する予定であると発表しました。	スコープ1および2の市場ベースのGHG排出量を2030年までに少なくとも50%、2040年までに80%削減し、2050年までには事業活動におけるカーボンニュートラルを達成する。^{※1, ※4} 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。	 13.1
	大気汚染 ①	3Mのサステナビリティ戦略の重要な要素の一つに、大気汚染を世界的に改善する取り組みがあります。3Mは、VOC（揮発性有機化合物）排出量を最小限に抑えるための社内プログラムを策定しました。 私たちは、国際的なNGOであるClean Air Asiaと協力して、インドのニューデリーとフィリピンのマニラ首都圏向けにサイエンスに基づいた大気汚染ソリューションを開発しています。	3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。^{※1}	 3.9  11.6
	過度のエネルギー使用 (エネルギー資源の減少を含む) ①	私たちは、エネルギー効率を継続的に改善し、エンジニアリングの専門知識と先進性を活用し、事業所レベルの効率改善を推進し、経営陣のサポートを維持し、3Mのレビュー (評判) を維持・保護することにコミットしています。 私たちは、エネルギー効率の向上と温室効果ガス排出量の削減に役立つ幅広いイノベティブな製品を通じて、お客様にサービスを提供しています。	2025年までに純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。 再生エネルギーの使用率を2025年までに全体の50%に増やし、2050年までに100%にする。 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。	 7.3
	自然災害への対応 ③	自然災害の頻度と深刻さが増す中、3Mはパートナーと救援隊員の迅速な対応をサポートするために不可欠な物資と資金を継続的に提供しています。	2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。	 2.1



優先項目と階層		グローバルの活動	目標とコミットメント	関連するSDG
Science for Community サイエンスでコミュニティに貢献	人権侵害 ① 倫理的なビジネス、安全な労働条件、サプライチェーンにおける労働者の不適切な扱い ②	人権と職場の安全の尊重は、私たちのカルチャーに深く根付いています。人権、職場の安全、および職場とサプライチェーン内の健全性を管理および保証するための3Mのアプローチは、3Mの行動規範に基づいています。これらのプログラムは、グローバルポリシー、管理システム、評価、監査、トレーニング、および指標のトラッキングを通じて実施されます。 3Mでは、環境および社会ガバナンスに関して自らに高い基準を設定し、サプライヤーにも同様のことを求めます。サプライヤーは、労働、健康と安全、環境、倫理、管理システムなどの社会的慣行について、透明性を保つこと、改善のアイデアを提供すること、サプライヤー責任規範に記載されているように私たちと協力して共有バリューチェーンを変革すること、が求められます。	2025年までに対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。	 8.7, 8.8  16.5, 16.7
	コミュニティの構築を支援し、持続可能な行動に対する市民との協力 ②	私たちは、リーダーシップやイノベーション、ディスラプティブ(創造的破壊)な変化を生み出す取り組みにおいて、アドボカシー、サポート、パートナーシップに注力し、より持続可能な未来のためのインパクトを推進しています。 3Mおよび3M Foundationは、戦略的に投資を行い、世界中の3Mの事業と活動拠点が関与し、スキルと経験を活用し無償提供する社員らが十分な配慮を持って関わることで、世界に影響を与え、持続可能なコミュニティの構築を支援します。	3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。^{※1} 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの労働時間を寄付する。	 12.A, 12.2  13.1  17.16



優先項目と階層	グローバルの活動	目標とコミットメント	関連するSDG
Science for Community サイエンスでコミュニティに貢献 コミュニティの人々の健康と安全、人間の病気の蔓延、食品の安全などを含む人間の健康 2	3Mは、暮らしを改善し、健康と安全を保護し、地球規模の課題解決を支援する上でサイエンスが担う重要な役割を認識しています。 3Mは、疾病予防プログラムやオンサイト医療サービス、社員サポートプログラム(EAP)、包括的な医療費補助を通じて、社員の健康とウェルビーイング(幸福、幸せ)のカルチャーを促進します。持続可能なコミュニティの構築を支援するために、私たちの戦略的投資には、基本的な人間のニーズのサポートが含まれています。 世界のヘルスケア業界において、当社は、患者中心のアプローチでイノベーションを起こし、信頼性の高い高品質の製品とソリューションを開発しています。2020年には、スキルベースのボランティアプログラムを拡大しました。3M Impact Health Careを立ち上げることで、私たちは専門知識を活用して医療の不平等に対処しています。 COVID-19の発生に際し、私たちは3M呼吸用保護具の生産を加速し、看護師、医師、初期対応要員、エッセンシャルワーカーの保護支援に取り組み、最終的に年末までに世界で20億枚の呼吸用保護具を生産しました。また、バイオ医薬品製造ろ過製品、手指消毒剤、除菌剤など、COVID-19対策で使用される他のソリューションの生産も最大化しました。 3Mは、お客様が科学的専門知識を深め、自身の組織内で食品の安全性と品質を向上させるのに役立つ教育コンテンツを提供しています。3Mの幅広い食品安全性試験ソリューションは、消費者の健康を保護するのに役立ちます。	3Mの新製品開発、商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的な大義のためにインパクトを与えるか表示する。^{※1} 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの労働時間を寄付する。	3.c, 3.8
労働力の多様性、教育へのアクセスの改善、失業への取り組み 3	3Mは、STEM(科学・技術・工学・数学)分野で十分な教育を受けて卒業する人材の重要性と、STEM教育とキャリアへの公平なアクセスの必要性を認識しています。これにより、会社とコミュニティ内でのダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン、社会正義を推進できます。私たちはサイエンスの力を信じ、専門知識を共有し、将来有望な人材への投資を行います。	2025年までに、人材開発とSTEM教育の取り組みを通じて、米国の人種による機会の格差に対処するために5,000万ドルを投資する。^{※5} 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。 米国の黒人／アフリカ系アメリカ人とヒスパニック／ラテン系の社員の構成比を倍増させる。^{※5, ※6} 2025年末までに、社会的少数者を対象として、500万回の独自のSTEM分野と技能スキルを学ぶ体験を提供し、経済的公正・公平性を推進する。^{※7} 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。	4.4, 4.5, 4.c 5.5 10.2



優先項目と階層	グローバルの活動	目標とコミットメント	関連するSDG
透明性 ①	揺るぎない誠実さと透明性をもって行動することは、私たちが何ものであるのかを示す根幹です。当社が透明性にコミットしていることは、この「年次サステナビリティレポート」や「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンレポート」の発行や、国連グローバル・コンパクトへのコミットメントの一環として進捗状況に関する年次報告書を提出していること等様々な点から明白です。		 16.6
法順守を支持し、サステナビリティを支援 ②	3Mは、科学に基づく意思決定により策定された環境政策と規制を支持し、イノベーションなソリューションの採用と実施を奨励しています。		 17.14

※1：2019年がベースライン測定年。

※2：2015年から2025年の間に水の使用量を10%削減することを目標とした以前の取り組みを拡大。

※3：2021年に設定。

※4：以前の2025年の目標を2002年のベースラインの50%未満に維持するように拡張。即ち3Mの2030年のスコープ1および2の排出量は2002年のレベルから85%以上削減される設定。

※5：2020年がベースライン測定年。

※6：2020年に設定。徐々にこの傾向を強め、推進軌道にのせる。

※7：2021年にベースライン測定年を設定。3Mは、National Science Foundation (全米科学財団) の研究を用いて米国の社会的少数者を定義。

全体的な定義は、教育や学習体験を受けるための社会的支援や機会を享受できていない少数派グループのジェンダーダイバーシティや地域的背景に基づく。

過去、現在、そして未来の注力分野

2014年から2020年にかけて、ステークホルダーの優先項目が次のように変化しました。

- 2014年から2020年にかけて、3Mにとって気候関連の問題、特に気候変動の重要性が高まっています。気候変動は、COVID-19のパンデミックが進行中の現在の状況下でも、優先項目の調査では、ステークホルダーにとって最も重要な問題になっています。
- 2016年以降、透明性と人権はTier 2からTier 1の優先項目に移行し、3Mのレピュテーションに最も高い相対的影響を与えています。



- 地域の健康と安全、安全な労働条件、および倫理的なビジネス慣行は、2020年にTier 1からTier 2に移行しました。
- 2020年には、オペレーションによる廃棄物のカテゴリが拡大され、プラスチックおよび包装廃棄物の削減が含まれるようになりました。2014年からTier 1の優先項目であったオペレーションによる廃棄物の削減は、2020年にTier 2に移行しました。プラスチック／包装廃棄物はTier 1の優先項目です。





インパクトを推進

持続可能な未来の創造のために目標を強化

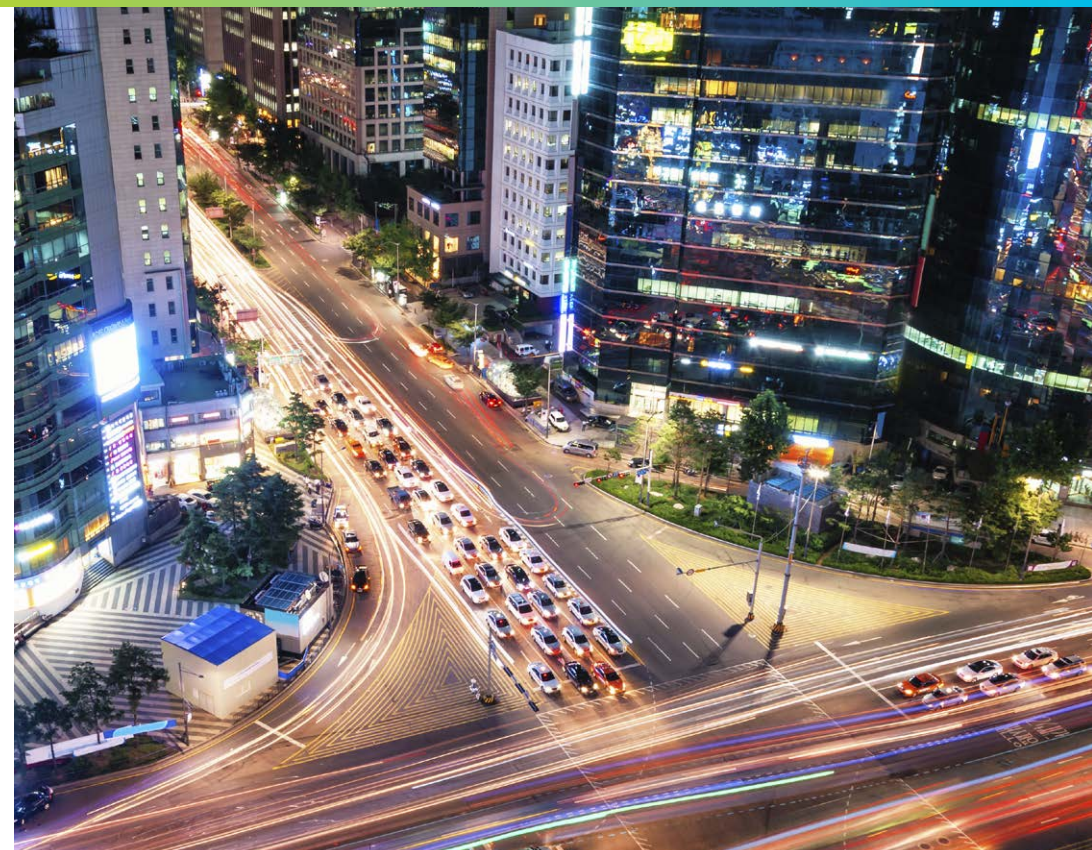
私たちのコミットメント

3Mは1975年に画期的な3M Pollution Prevention Pays (3P) プログラムを創設して以来、40年以上にわたり、サステナビリティの取り組みと対策においてグローバル企業の先駆者であり続けてきました。

未来の世代のために、世界をより持続可能にしていけるのに、どれだけ多くの取り組みが必要になるかを認識するにつれ、私たちの目標は一層力強いものになり、勢いを増しています。地球規模で、最大の課題の一部に対し、解決策を加速させていくための、Decade of Action（行動の10年）が始まっています。私たちは、企業として当社にメリットがあることを単に重視するという枠を超え、更に多くのことに取り組んでいくことを約束します。私たちは、自身のリソースと組織的能力を利用して世界にプラスの影響を与えていくことをコミットしており、それを実現する力を持っています。

これは、私たちがステークホルダーから求められていることであり、自らも求めていることです。

2015年、私たちは2025年サステナビリティゴールを設定し、3Mという範囲を超えて、お客様、サプライヤー、社会的影響力まで含めました。コンプライアンスに留まらない活動をしていくこと、そして私たちのオペレーションと製品が、世界と全ての人々の暮らしにどのように影響するかを、総合的に考えていくことへのコミットメントの高まりが、私たちが追求している目標に反映されています。今後10年間で、**戦略的サステナビリティフレームワーク**の3つの柱の中で体系的な変化を生み出す機会があると考えています。



戦略的サステナビリティフレームワークは、私たちがサイエンスの力ですべての人々の暮らしを良くする活動を下支えします。

同フレームワークは、ビジネス上の意思決定と戦略、ローカルおよびグローバルコミュニティへのインパクトにどれだけ注力するかをの指針にもなります。そのため、私たちは2025年サステナビリティゴールを、戦略的サステナビリティフレームワークの各柱（サイエンスで循環型経済に貢献、サイエンスで気候変動に貢献、サイエンスでコミュニティに貢献）の建付けに沿うように構成しています。

40年

以上にわたり

3Mは、サステナビリティの取り組みと対策においてグローバル企業の先駆者であり続けています。





Science for Circular サイエンスで循環型経済に貢献

- 3Mの新製品商品化プロセス上にあるすべての新製品に、サステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務付け、各製品がどのように社会的意義のために好影響を与えるか表示する。^{※1}
- 2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。
- 2025年までに30%以上の製造拠点で埋め立て廃棄物ゼロ (のステータス) を達成する。
- 2025年までに対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。
- 世界的な水の使用量を売上対比で次の量削減する。2022年までに10%、2025年までに20%、2030年までに25%削減する。^{※1, ※2}
- 3Mの世界中の製造工程において、2030年までに自然に戻す水質を向上させる。まずは、米国で水使用量の多い製造拠点に最新の浄水設備を導入し、2024年末までに稼働させることに注力する。^{※1}
- 2025年までに3Mが製造活動を行っていて水ストレス (日常生活に不便のある状態) や水不足にあるコミュニティの100%で、コミュニティ全体規模の水管理への取り組みに協力する。
- 2025年までにバージン (未使用) の化石資源由来のプラスチックへの依存度を1億2,500万ポンド削減する。^{※3, ※5}



Science for Climate サイエンスで気候変動に貢献

- 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。
- 2025年までに純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。
- スcope 1および2の市場ベースのGHG排出量を2030年までに少なくとも50%、2040年までに80%削減し、2050年までには事業活動におけるカーボンニュートラルを達成する。^{※1, ※4}
- 再生エネルギーの使用率を2025年までに全体の50%に増やし、2050年までに100%にする。



Science for Community サイエンスでコミュニティに貢献

- 2025年までに、人材開発とSTEM教育の取り組みを通じて、米国の人種による機会の格差に対処するために5,000万ドルを投資する。^{※5}
- 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。
- 米国の黒人／アフリカ系アメリカ人とヒスパニック／ラテン系の社員の構成比を倍増させる。^{※5, ※6}
- 2025年末までに、社会的少数者を対象として、500万回の独自のSTEM分野と技能スキルを学ぶ体験を提供し、経済的公正・公平性を推進する。^{※7}
- 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。
- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。
- 世界中で100%のpay equity (同一労働同一賃金) を維持または達成する。^{※5, ※6}
- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの労働時間を寄付する。
- 2025年までに個人と組織としての力を高めるために様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。

グローバルの活動

私たちは、既存の目標を進化させ、必要に応じて新しい目標を追加するよう取り組んでいます。2019年、3Mは、新製品の商品化プロセス上にあるすべての製品にサステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務化しました。2020年には、当該要件を強化しました。詳細については、[グローバル版の特集記事「Making strides embedding sustainability into new products」](#)をご覧ください。特に明記されていない限り、すべての目標は2015年をベースライン測定年としています。

私たちの目標は一層強化され、勢いを増しています。

※1：2019年がベースライン測定年。

※2：2015年から2025年の間に水の使用量を10%削減することを目標とした以前の取り組みを拡大。

※3：2021年に設定。

※4：以前の2025年の目標を2002年のベースラインの50%未満に維持するように拡張。即ち3Mの2030年のスコープ1および2の排出量は2002年のレベルから85%以上削減される設定。

※5：2020年がベースライン測定年。

※6：2020年に設定。徐々にこの傾向を強め、推進軌道にのせる。

※7：2021年にベースライン測定年を設定。3Mは、National Science Foundation (全米科学財団) の研究を用いて米国の社会的少数者を定義。全体的な定義は、教育や学習体験を受けるための社会的支援や機会を享受できていない少数派グループのジェンダーダイバーシティや地域的背景に基づく。

Science for Circular サイエンスで循環型経済に貢献

少ない資材で
より向上に寄与する
ソリューションを設計し、
世界の循環型経済を
進展させる。

グローバルの活動

サステナビリティゴール — 2020年の結果

2020年新製品のサステナビリティ
バリューコミットメント

100% 

達成

目標達成 100%



売り上げ原単位で

9.98% 

製造廃棄物削減

10%削減の目標に
向けて活動中



42.9% 

(69製造事業所)

事業所が埋め立て廃棄物ゼロ

目標を30%超過



売り上げ原単位で

0.00% 

水使用効率の改善

10%改善の実施目標に
対して未達



16 

製造事業所が
水ストレス／不足地域に特定

目標の維持



468 

サプライヤー
評価完了

サプライヤーのパフォーマンス
を推進するという目標を維持



Science for Circularに関するより詳細なグローバルの活動については、
グローバル版の「Circular materials」を参照ください。



Science for Circular サイエンスで循環型経済に貢献

日本の活動

サイエンスで循環型経済に貢献

- 2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。

3Mジャパングループの製品には多品種少量生産という特徴があり、新製品比率も高いことから設備や工程条件の変更によって生じる廃棄物が少なくありません。このため3Mジャパングループでは、ごみの削減を目指して、まず廃棄物の発生を可能な限り抑制し、それでも発生した廃棄物については再資源化を図ることに長年取り組んできました。具体的には、製品収率の向上を追求し、全事業所においてリユース・リサイクルを徹底するとともに、焼却時の熱を回収・利用するサーマルリサイクルなどによって再資源化される廃棄物の割合を増やしています。

廃棄物発生量の削減

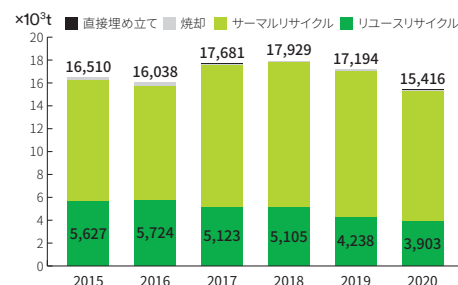
2020年度の廃棄物発生量は、生産量が減少したことに伴い前年度の12,956トンから11,513トン（前年度比88.9%）に減少しています。

廃棄物については、サステナビリティ目標の一つとして、2016年度から新たに基準年を2015年としたET25（Environmental Target 2025）を設定しています。ET25では、処理方法にも注目し、特に単純焼却および埋め立て処理される廃棄物に関して、製品生産量あたりの廃棄物発生原単位として「2015年対比で2020年10%減とする」ゴールを設定しています。

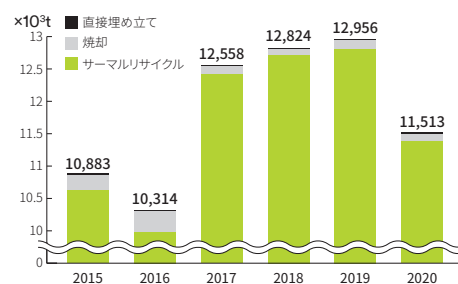
2020年度は同比で53.5%の削減となり、年度の目標10%削減を大幅に超えました。

ET25の詳細については、『環境・健康・安全マネジメント』の「日本のサステナビリティ目標とET25」をご覧ください。

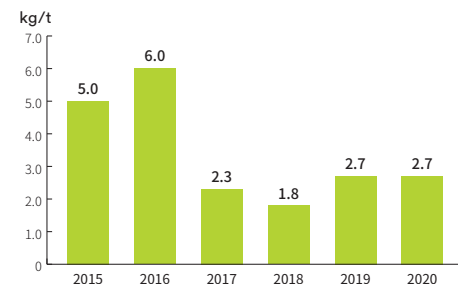
廃棄物の行方（トン）



廃棄物発生量（トン）



廃棄物発生量（生産高原単位 kg/t）



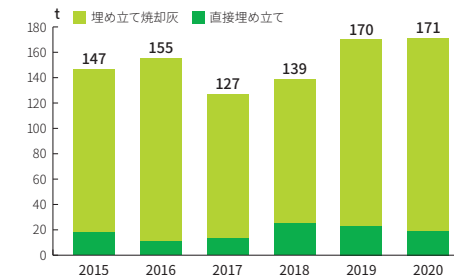
サイエンスで循環型経済に貢献

- 2025年までに30%以上の製造拠点で埋め立て廃棄物ゼロ（のステータス）を達成する。

廃棄物最終処分量の推移

3Mジャパングループの2020年度の廃棄物最終処分量（直接埋め立てと埋め立て処理される焼却灰）は、171トン（前年度比100.6%）でした。内訳は、直接埋め立て廃棄物が19トン、埋め立て焼却灰が152トンでした。直接の廃棄物埋め立て量は減少していますが、焼却処理する廃棄物の種類に起因して焼却灰の埋め立て量が増加しています。今後も新たなリサイクル処理先の開拓に加え、さらに焼却廃棄物の発生を減らすプログラムを推進していくことで、直接埋め立てを減らしていくことを検討しています。

埋め立て廃棄物推移（トン）

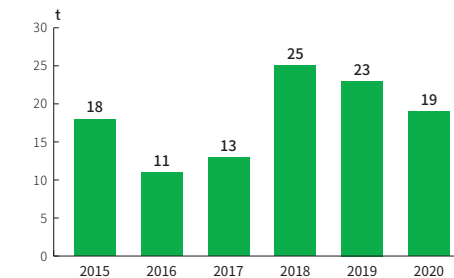


	2015	2016	2017	2018	2019	2020	備考欄 (対前年度比)
直接埋め立て 廃棄物量(t)	18	11	13	25	23	19	84.3%
埋め立て 焼却灰(内)(t)	129	144	114	114	147	152	103.0%
最終処分量(t)	147	155	127	139	170	171	100.5%

直接埋め立て廃棄物の推移

3Mジャパングループの2020年度の廃棄物最終処分量（廃棄物の直接埋め立て）は、19トン（前年度比84.3%）でした。直接の廃棄物埋め立て量は、廃棄物発生量自体の削減プログラムや処分方法を直接埋め立てから処理工程を経てのリサイクルに変更することで減少しています。今後も新たなリサイクル処理先の開拓に加え、さらに廃棄物の直接埋め立てを減らしていくことを検討しています。

直接埋め立て廃棄物（トン）



廃棄物 — 環境法令への対応

3Mジャパングループでは、廃棄物の処理および清掃に関する法律（第十五条の二の三第二項）に基づく維持管理情報を公表しています。

詳しくはウェブサイト、[サステナビリティポリシーおよびレポート](#)をご覧ください。



サイエンスで循環型経済に貢献

- 世界的な水の使用量を売上対比で次の量削減する。
2022年までに10%、2025年までに20%、2030年までに25%削減する。

水使用量の削減

3Mジャパングループは水使用量の削減に継続的に取り組んでいます。

現在は、

- ① 工業用水、生活用水ともに、無駄を無くし使用量を削減する
 - ② 工業用水については、井水を積極的に活用することで市水の使用を削減し、さらにリサイクルを推進する
 - ③ 社員の自発的な提案による水使用効率改善活動
- の3点をテーマに水効率の改善を推進しています。

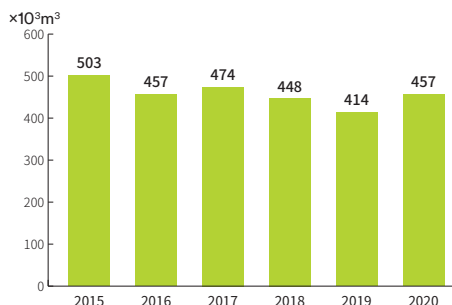
2020年度の水使用量は、前年よりも増加しています。これは、冷却水のリサーキュレーションの不具合により使用が増えたこと、積雪量が多かったために融雪に使用する地下水量が増えたことが主な原因でした。設備の冷却水については、

すでに改善対策が実施されており、2021年以降の使用量は削減されることが見込まれています。融雪についても、使用する地下水の再利用など、削減方法が検討されています。

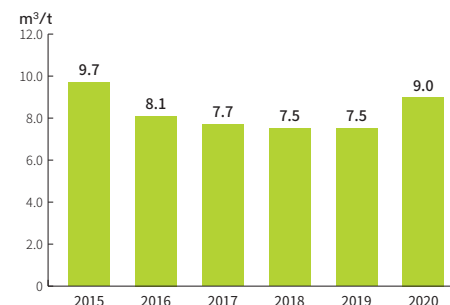
水使用量原単位に関しては、サステナビリティ目標の一つとして、2016年度から新たに基準年を2015年としたET25 (Environmental Target 2025) で、2025年のゴールを設定し、水使用の削減に貢献する各種プログラムを推進しています。2020年の目標は2015年比マイナス10%に対して、実績はマイナス2.8%と目標未達に終わりました。

ET25の詳細については、『環境・健康・安全マネジメント』の「日本のサステナビリティ目標とET25」をご覧ください。

水使用量 (m³)



水使用量原単位 (生産高原単位 m³/t)



山形事業所

岩手事業所



Science for Climate サイエンスで気候変動に貢献

産業の脱炭素化のための
イノベーションを起こし、
世界的気候課題の
ソリューションを加速化し、
自社の環境フットプリントを
改善する。

グローバルの活動

サステナビリティゴール —2020年の結果

売り上げ原単位で

8.73%

エネルギー効率を
改善



30%改善の目標には未達



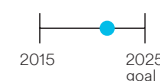
全使用電力における再生可能
エネルギー使用率

35.4%

に増加



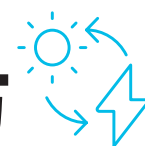
50%の目標に
向かって進展中



CO₂約

7,500万

トンに相当する
お客様の排出防止



2億5千万トンに
向けて進展中



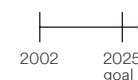
スコープ1、2排出、
ベースラインから

71.1%

下回る



ベースライン※から
50%以下にする目標を達成



※ ベースラインは2002年、その他については全て2015年。

Science for Climateに関するより詳細なグローバルの活動については、
グローバル版の「Climate and energy」を参照ください。

Science for Climate サイエンスで気候変動に貢献

日本の活動

サイエンスで気候変動に貢献

- スコープ1および2の市場ベースのGHG排出量を
2030年までに少なくとも50%、2040年までに80%削減し、
2050年までには事業活動におけるカーボンニュートラルを達成する。

温室効果ガスの排出削減

2020年度の3Mジャパングループの温室効果ガス総排出量は、CO₂(二酸化炭素)と、製造プロセスから排出されるその他の温室効果ガス(CO₂換算)の合計値で前年比88%となり、12%削減を実現しました。

PFCは京都議定書で削減対象ガスに指定されました。3MジャパングループはこのPFC製品を3M社から輸入・販売しています。一部は出荷単位の変更に伴う充填作業後に出荷していますが、その工程でPFC製品の一部分が大気へ放出されるため、蒸気回収設備を設置し、放出ガス削減に積極的に取り組み続けています。また、お客様が使用されたPFC製品をリサイクルする取り組みも行っています。

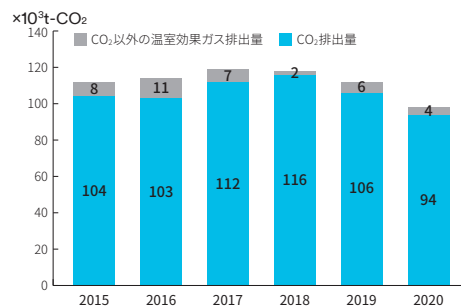
カテゴリー別での温室効果ガス排出削減

2020年度に3Mジャパングループから排出された温室効果ガスのうち82%がエネルギー消費(燃料および電力使用)と廃棄物焼却に起因しています。これら二つの課題を改善していく目的で、3Mジャパングループではサステナビリティ目標の一つとして2016年度から新たに、基準年を2015年としたET25(Environmental Target 2025)を設定しました。

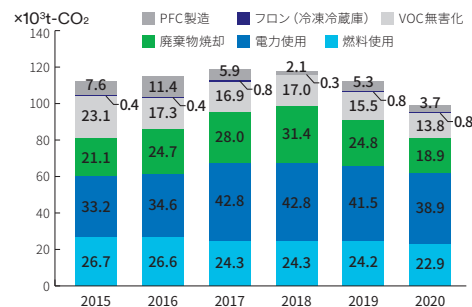
そのET25では、「廃棄物発生量原単位を2015年対比で2020年10%減とする」、「使用エネルギー原単位を2015年対比で2025年までに30%減とする」目標を掲げています。

ET25の詳細については、『環境・健康・安全マネジメント』の「日本のサステナビリティ目標とET25」をご覧ください。

温室効果ガス排出量(トン-CO₂)



温室効果ガスのカテゴリー別排出量(トン-CO₂)



サイエンスで気候変動に貢献

- 2025年までに純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。

エネルギー削減への取り組み

3Mジャパングループは1970年以降、エネルギー削減に継続的に取り組んでいます。

現在は、

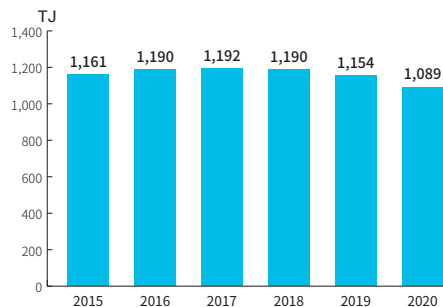
- ① エネルギー削減を推進する製品製造プロセスの導入
- ② エネルギー効率の優れた施設・設備への転換
- ③ 社員の自発的な提案によるエネルギー効率改善活動

の3点をテーマにエネルギー効率の改善を推進しています。

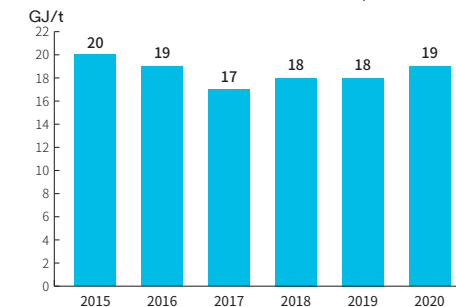
2020年度の使用エネルギーは、主要エネルギーである電力(前年度比94.6%)は前年を下回り、天然ガス(同比86.6%)、LPG(同比90.2%)、灯油(同比95.1%)の消費量も前年から減少しました。

			2015	2016	2017	2018	2019	2020	備考欄(対前年度比)
エネルギー	電力	MWh	75,313	78,058	81,087	81,603	78,024	73,842	94.6%
	灯油	Kl	8,645	8,760	8,031	7,874	7,826	7,446	95.1%
	天然ガス	Km ³	1,737	1,681	1,678	1,652	1,700	1,471	86.6%
	LPG	t	40	34	34	17	17	16	90.2%
	ガソリン・軽油	Kl	440	440	413	436	407	412	101.1%
	全エネルギー合計	T-Joule	1,161	1,190	1,192	1,190	1,154	1,089	94.3%

使用エネルギー(TJ)



使用エネルギー(生産高原単位 GJ/t)





サイエンスで気候変動に貢献

- 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。

事業部・販売部の取り組み

3MジャパングループではISO 14001活動の一環として、製品事業部・製品販売部が環境活動プログラムの中で、環境ソリューション製品の取り扱いに力を入れています。

2020年の活動では、9つの製品事業部・販売部がお客様の二酸化炭素排出削減に効果のある環境ソリューション製品を環境活動プログラムとして取り組みました。

サイエンスで気候変動に貢献

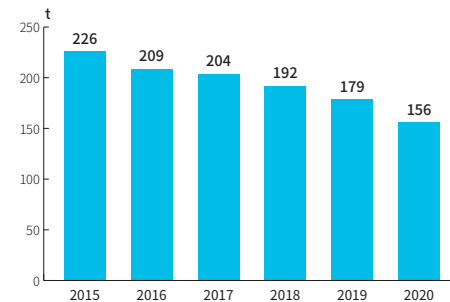
- 産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。

関連する3Mジャパングループその他の活動

大気汚染防止への取り組み

3Mジャパングループの製品には、製造工程で様々な有機溶剤を使う場合があり、VOC（揮発性有機化合物）の排出量削減を重点課題の一つとして位置づけています。3Mジャパングループでは、有機溶剤が大気中に放出されることによる汚染を防ぐために、無溶剤技術の開発や、汚染防止設備の設置などを推進しています。

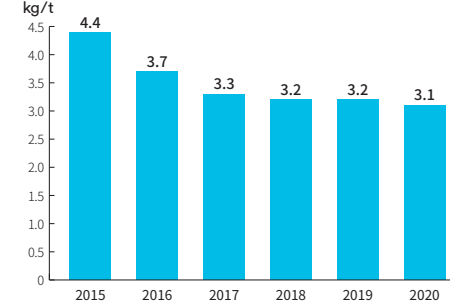
VOC排出量(トン)



溶剤回収装置・溶剤排ガス無害化処理装置の導入とエネルギー再利用

生産工程の中で使用された有機溶剤を適正に処理するため、溶剤回収装置や溶剤排ガス無害化処理設備などを設置し、VOCの大気中への放出を抑制しています。また、溶剤排ガス無害化処理設備では有機溶剤の大気放出を抑制するだけでなく、燃焼で発生した熱エネルギーを回収し、再利用しています。2020年度は、生産量の減少（前年比91.5%）を上回る削減（前年比86.9%）を記録しました。

VOC排出量(生産高原単位 kg/t)



環境排出 — 環境法令への対応

3Mジャパングループは化学物質の管理システムの一部として、化学物質データベースを構築・運営しています。これにより、PRTR法が定めた報告内容に準拠した化学物質の管理が可能となっています。

下表は2020年度の3Mジャパングループの全事業所における該当物質の環境排出量および移動量をまとめたものです。

PRTR(Pollution Release and Transfer Register)：
化学物質排出移動量届け出制度。有害性のある化学物質がどのような発生装置から、どのくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する制度。行政機関に年に1回届け出ます。日本では1999年に法制化されました。

PRTR対象物質の環境排出量と移動量(2020年度：2020年4月～2021年3月)

政令番号	物質名	排出量(kg)			移動量 ^{※2} (kg)
		大気	水域	土壌	
053	エチルベンゼン	21,399	0	0	4,967
448	ジフェニルメタンジイソシアネート(MDI)	1,303	0	0	195
446	4,4'-メチレンジアニリン	0	0	0	1,625
134	酢酸ビニル	92	0	0	189
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	42	0	0	45
300	トルエン	24,596	0	0	28,454
349	フェノール	4	0	0	3
392	ノルマルヘキサン	33	0	0	99
455	モルホリン	410	0	0	36
276	テトラエチレンペンタミン	0	0	0	0
277	トリエチルアミン	34	0	0	56
207	2,6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール(BHT)	67	0	0	44
306	1,6-ヘキサンジオールジアクリレート	1	0	0	324
080	キシレン(o-,p-,m-)総計	25,648	0	0	6,668
460	トリクレジルホスフェート	3	0	0	1
007	アクリル酸ブチル	37	0	0	4,132
320	ノニルフェノール	23	0	0	23
411	ホルムアルデヒド	41	0	0	44
416	メタクリル酸 2-エチルヘキシル	0	0	0	1,269
239	ジブチル錫ジラウレート(有機スズ化合物)	0	0	0	87
004	アクリル酸	32	0	0	16
420	メタクリル酸 メチル	33	0	0	32
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	265	0	0	283
419	メタクリル酸ノルマル-ブチル	0	0	0	1,885
243	ダイオキシン(mg) ^{※1}	0.01	0.00	0.00	403.00
	合計(除くダイオキシン)	74,062	0	0	50,476

※1：ダイオキシンのみmg

※2：移動量とは事業所外で適正に処理された量です。



Science for Community サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてより
ポジティブな世界を作り、
人々の意識を喚起し
賛同を得る。

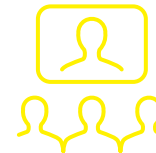
グローバルの活動

サステナビリティゴール — 2020年の結果

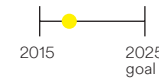
対面または
オンライントレーニング

166万

件の提供



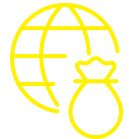
500万件のトレーニング提供に
向けて活動中



合計で

8,790万ドル

global giving
への投資



グローバルな寄付プログラム
への投資を継続するという
目標を達成



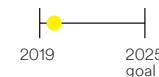
世界中で

35,200

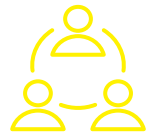
スキルベース
労働時間を寄付



30万時間の目標に
向かって活動中



マネジメントにおける
多様な才能の
パイプラインの増加



32.6% → 43.2%

パイプラインの倍増目標に
向かって活動中



Science for Communityに関するより詳細なグローバルの活動については、
グローバル版の「Community」、「Employee diversity, equity, and inclusion」と
「Employee programs」を参照ください。



Science for Community サイエンスでコミュニティに貢献

COVID-19 コミュニティへの取り組み グローバルの活動

サイエンスでコミュニティに貢献

- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。

2020年、私たちはグローバルのコミットメントをCOVID-19の対応に焦点を当てることにシフトし、公平性、多様性、コミュニティへ参加する、これまでの取り組みを倍増させました。

COVID-19の対応に焦点を当てるために、私たちの多くの仕事の戦略変更をしました。

COVID-19の寄付／投資 3Mのコーポレート投資 ——2,000万ドル

3Mは、医療従事者やその他の被害を受けやすい人々を支援するための2,000万ドルの企業投資を通じて、COVID-19との戦いにおいてリーダーシップを発揮しました。

グローバルにおける主な寄付、投資活動については次の通りです。

- 1,000万ドル——最前線の医療従事者の保護とサービス
- 500万ドル——研究開発※
- 500万ドル——COVID-19の影響を受けた脆弱な人々を支援

※3Mは、COVID-19との戦いにおける科学的進歩を促進するために、世界中の主要な大学に500万ドルの助成金を授与しました。3Mの企業医療ディレクターとその内部医療R&D評議会は、機関の推薦を検討し、グローバルな代表に関するガイダンスと洞察を提供しました。世界の各地域、すなわち米国およびカナダ(USAC)、ヨーロッパ、中東、アフリカ(EMEA)、ラテンアメリカ、およびアジア太平洋の少なくとも1つの教育機関のプロジェクトに資金提供されました。

最前線の医療従事者と 初期対応要員への対応

3Mはパンデミックに早期かつ迅速に対応し、最前線で献身的に働く医療従事者や初期対応要員に重要な製品を供給しました。

2020年末までに、世界で 20億個 のN95呼吸器を生産しました。

これは、2019年に製造した量の3倍以上です。N95の大幅な需要増加に対応するため、新たな生産拠点の建設など施設を拡張しました。3Mは、N95呼吸用保護具に加えて、手指消毒剤や除菌剤など、COVID-19への対応に使用される他のソリューションの生産を拡大しました。

日本の活動

東京大学医科学研究所へ研究助成

3Mは、2020年末に新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対処するための科学的知見を深める活動の一環として、新型コロナウイルス感染症および感染予防に関する研究を精力的に行っている東京大学医科学研究所に対して、40万ドル(約4,200万円)の研究助成を行いました。

日本感染症学会に寄付

医療の最前線で新型コロナウイルス感染症に立ち向かい、患者の治療に尽力されている医療従事者の皆さまへの感謝と、新型コロナウイルス感染症対策への取り組みを推進されている日本感染症学会に向けた社会貢献の一環として、



3M™ リットマン™ ステスコープの聴診器購入1本につき200円を寄付するキャンペーンを行い、日本感染症学会に600万円を超える寄付を行いました。

医療従事者向け感染対策製品の増産

スリーエム ジャパン プロダクツ(株) 山形事業所において3M™ マスクにくつつくアイガードの製造能力を、従来の4倍に増強いたしました。3M™ マスクにくつつくアイガードは、微細なフック構造でマスクへの着脱を容易にし、特に患者との接触が多い看護師の飛沫(ひまつ)感染対策の必要性に対応して日本で開発された製品です。



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

耳を傾け理解し、行動することによりつながりのあるコミュニティを育成する。

私たちのコミットメント

インクルージョンはエンゲージメントにつながり、エンゲージメントは創造性を育み、創造性はイノベーションを誘発し、イノベーションは成長を明示します。

3Mは、世界で最も開放的な会社になるために、全ての社員に魅力を感じてもらい、そして世界中から最高の人財を惹きつけることに注力しています。ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)は、私たちの**バリューモデル**の基盤です。私たちのバリューモデルは、企業の中で私たちを特別な存在にし、市場において私たちを差別化するようなアクションから構成されています。様々な経験、民族性、年齢、性別、性的指向、能力、性格、スタイル、および考え方など、多様性にあふれた人々によって、世界中の3Mのお客様、サプライヤー、チャネルパートナーのニーズにより密接に対応できると考えます。

同じように重要なこととして、私たちはインクルージョンが多様性の力を開花するカギであると認識しています。インクルーシブなカルチャーとは、個々人の違いを支持し、理解し、公平で平等な機会を全ての人に与えます。それにより、人々はあるままの自分を尊重され、誰もが帰属感を感じることができます。

なによりも、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)を促進するカルチャーを醸成することは、正しい行いとして奨励されます。DE&Iとは、全ての人が活躍し、コラボレーションし、安心して賛成または反対し、敬意を持って意見を交わし、学び、創造することができるよう、

知的で感性あふれるような空気感を生み出すことです。

当社の**行動規範**は、3M社員であることは何を意味するのかを示し、以下の3Mの「尊重し合う職場に関する指針(3M Respectful Workplace Principle)」を含んでいます。

敬意をもつこと：私たち全員の持つ最高の資質を反映、活用する職場環境を作るため尽力します。こうした環境では各人が敬意をもって職業人として互いに接し、個性を尊重します。

3Mの尊重し合う職場の指針は、「3Mの職場では誰もが敬意ある対応を受ける権利を有します。敬意ある対応とは、各個人を職業人として誠実に扱い、その個性、経歴および思想の価値を認めることを意味します。尊重し合う職場には、違法な差別やハラスメントは存在しません。ただし、法律を遵守するだけでは不十分です。不適切な態度や、職業人にあるまじき態度を取らずに、3Mの倫理や理念に沿って業務を遂行できる環境でなければなりません。こうした職場では、誰もが最善を尽くすことができ、報復をおそれずに職場での懸念を遠慮なく報告することができます」と説明しています。

このような職場づくりを促進するため、3Mでは社員、求職者、お取引先に対する人種、肌の色、宗教、性別、国籍、障がいの有無、性的指向、婚姻状況、その他あらゆる形態の差別とハラスメントを禁じています。

次に、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンを推し進めるための、日本での取り組みをご紹介します。



日本の活動

サイエンスでコミュニティに貢献

- 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。

スポンサーシップ・プログラム

3Mジャパングループの将来のマネジメントを担うポテンシャルのある女性人財を特定し、担当部門の役員自らがスポンサーとなって、部長職への昇進過程を支援する2年間のプログラムです。スポンサーというのは、メンターのようなキャリア形成上の助言や相談にとどまらず、昇進・配属などに直接的な影響力とオーナーシップを持って自分のミッションの一つとして候補者を支援するものです。2015年にスタートしたこのプログラムは、当社の女性人財育成および登用を推進しています。

リバースマンタリング・プログラム

3Mジャパングループでは、多様性あふれる社員の意見や経験・知識をビジネスに活かし、社員と会社双方の成長を目指すため、リバースマンタリング・プログラムを行っています。このリバー

スマンタリング・プログラムでは、職業経験のまだ浅い社員がメンター、シニアリーダーがメンティとなり、リバースマンター世代の価値観や考え方を学び、世代の壁や経験の違いを超えてリバースマンタリングの対話を通じて互いの理解を深めることを目的としています。2018年のリバースマンタリング・プログラム導入初年度は、役員1名のメンティに対して、社会人経験4年目までの社員2名がメンターとなって実施し、2019年にはメンティの対象を事業部長にまで拡大し、メンティ2名、メンター2名の4人グループでのリバースマンタリングを実施しました。このリバースマンタリングがインクルージョンを高める取り組みとして評価され、2020年からは、アジアパシフィック全域で展開されています。リバースマンタリング・プログラムは、組織の枠や職場の上下関係を超えたネットワーク拡大と学びの機会として活躍され、インクルーシブなカルチャーの醸成を推進しています。



サイエンスでコミュニティに貢献

- 2025年までに個人と組織としての力を高めるために
様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。

3Mジャパン・リーダーシップ DE&I トークシリーズ

3Mジャパン・リーダーシップチームは、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンに関して、これまでの自身のキャリアを通して経験し、学んできたことを語る動画を、四半期に一度のペースで全社員にオンライン配信をしています。どのようにして視野を広げてきたのか、インクルージョンすることでマインドがどう変化したのかなどを語ることで、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの大切さを具体的に共感・理解し、カルチャーとしての醸成を促進しています。また、四半期に一度のタウンホールミーティングでは、リーダーシップメッセージとして自身の管轄するグループにおけるインクルージョンの紹介を行っています。

エンployeeリソースネットワーク (ERN)

3Mジャパングループでは、3M社のERNの1つであるウーマンリーダーシップフォーラム(WLF)に所属するDIIVA (Diversity & Inclusion for Innovative Values)、2020年にグローバル全体で発足した、テクニカルメンバーで構成されるTech-WLF、そして、入社した社員をサポートし、インクルージョンを促進するNEON (New Employee Organization Network) というERNがあります。それぞれのグループ特有の問題について話し合い、また、ミッションに合ったイベントや分科会の活動を通して交流し、ダイバーシティ、

エクイティ&インクルージョンを受容したネットワークの重要性、連帯感や主体性を高めた活動をしています。また、3Mジャパンリーダーシップチームのメンバーがサポーターとなり、これらの活動を支援しています。

2020 国際女性デー

2020年3月、3M社主催のイベントに参加し国際女性デーを祝いました。2020年の焦点は、公平な未来のための公平な権利でした。3M社では、WLFとダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンチームがインタラクティブなイベントを開催し、世界中で1,000人以上の3M社員が、それぞれの場所からライブイベント、またはバーチャルイベントに参加しました。



社員プログラム

社員の育成と有意義なカルチャーの構築

私たちのコミットメント

3Mでは、よりスキルを磨き、成長したいと考えている社員のために様々な機会を提供しています。職務においては世界中のほぼ全市場、全業界に接点があるため、幅広い経験を積むことができ、外国に住み、異国のカルチャーについて学ぶ機会もあります。

幅広いキャリアの選択肢があることは、一つの会社の中でキャリアを広げてゆくことを可能としています。さらに、個人の持つ違いを認め、尊重し合うインクルージョンを大切にするカルチャー

によってどの部門に行っても、好奇心旺盛で想像力に富む同僚と協働ができるというのも特徴です。

職務以外においても、個人と組織の力を高めるために、様々な能力開発プログラムを実施しています。事業環境が急速に変化する中、お客様、株主、社員の変わりゆくニーズに3Mが常にタイムリーに応じられるようにするためには、社員一人ひとりの継続的な学びが欠かせません。その上で、高いパフォーマンスで仕事をするカルチャーがあり、社員と会社がともに成長してゆくモデルを目指しています。



グローバルと日本の活動

サイエンスでコミュニティに貢献

- 2025年までに個人と組織としての力を高めるために
様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。

私たちは社員が仕事とキャリアの両方で成功できるように投資を惜しみません。社内で数多くの能力開発プログラムを実施し、社員に様々なチャネルを通じて学びの機会を提供します。私たちは能力開発に関して「70：20：10の法則」を採用しており、仕事、他者、研修といった異なるチャネルからの学びを奨励しています。



次に実施している具体的なプログラムの一例をあげます。

3Mカルチャーの浸透

3Mが100年以上の長きにわたりイノベーションを起こし続けてこれたのは、私たちの独特の企業文化に拠るところが大きいと考えています。私たちは2019年に企業文化を明文化し、5つの要素に分解しました。それらは「お客様を中心に」、「イノベーションを大胆に」、「インクルージョンを原動力に」、「アジャイルで成功する」、「ゆるぎない誠実さをもって」の5つです。2019年にはこれらを自分たちの言葉で理解するために全職場にて前述の「3Mカルチャー・アクティベーション・

ワークショップ」を行い、それぞれの職場でこれらの要素をよく体现できているところ、より強化が必要なところを話し合い、アクションを決めました。

2020年以降はグローバル化やデジタル化といった変化の中でも3Mカルチャーを活かせるように「Virtual Collaboration」、「Intercultural Collaboration」、「Change Agility」といったセッションをバーチャルで3Mジャパングループ全社員向けに展開しています。また、よりパーソナルな活動として、職務上はつながりのない上位職の人と一定期間ペアになり、キャリアや職務について定期的に相談ができる「メンタリング」や、前述した「リバースメンタリング・プログラム」の実施は、異なるポジション、世代間で3Mカルチャーが語られる機会となっており、この取り組み自体が「インクルージョンを原動力に」や「イノベーションを大胆に」といった3Mカルチャーを体现しているプログラムと言えます。

Growth Mindsetの醸成

3Mでは長年、「失敗の許容」という文化のもと15%カルチャーが実践され、社員の自主性とクリエイティビティが存分に発揮された結果、多くのイノベーションが開花してきました。この文化をより強化し、時代の変化に対応できるようにするため、3MではGrowth Mindsetの考え方を2019年から取り入れてきました。Growth Mindsetは「人は何歳になっても成長し続けられる」、「挑戦から学ぶプロセスにこそ成長がある」

という教育心理学から派生した科学的根拠のある考え方です。これを私たちの中に浸透させるために、2020年には『Growth Mindset Habitキャンペーン』をグローバルで展開し、3か月間にわたりGrowth Mindsetを習慣化するためのヒントを記載したメールマガジンを全社員に配信しました。同時にGrowth Mindsetのバーチャルセッションを実施し、数多くの3Mジャパングループの社員が受講済みです。

上司・部下との コミュニケーションを支援 ——Performance Everydayの導入

社内の変革にアラインする形で2020年には人事評価制度がアップデートされました。旧来の年年初に目標設定をして年度の間と年度末に面談をもつ形から、上司と社員が毎月1on1を実施し、個人の目標達成への進捗、業務の目的・意味の確認、日々の努力と結果への認知、フィードバックが行われるスタイルに変更をしました。この仕組みを3MではPerformance Everydayと呼んでいます。この仕組みでは上司と部下が信頼関係を築き、心理的安全性が確保されている中で個人の成長につながる対話がなされることが肝要です。それを実現するために、3MジャパングループではPerformance Everydayの導入と同時に、「1on1ミーティングの進め方」、「信頼関係の構築の仕方」、「コーチングスキル」等をテーマとしたトレーニングを全管理職向けに実施し、Performance Everydayの実施が円滑で効果的になるようにサポートしています。

場所を限定しない バーチャルトレーニング積極的展開

すべての社員に学びの機会を提供するとしてゴール達成に向け、2018年より、場所を限定せず、多くの社員が参加できるバーチャルトレーニング

を実施してきました。2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面型の集合研修の実施が困難になりましたが、バーチャルトレーニングをこれまで以上に積極的に展開し、社員の学びを止めることはありませんでした。特に、全社員を対象に提供しているプログラムでは、職種・役割・ビジネス経験の長さを問わず、私たちが直面するチャレンジや変化に対峙するために必要なマインドセットやスキルについて、様々なトピックを提供しています。



社員の声を傾聴し、学ぶ

50年以上にわたり、3Mは社員の見方や考え方、意見を吸い上げるために社員サーベイを行っています。2020年、3Mは主なサーベイ戦略を再考し、3Mセンサスという名称で知られる全社員対象とした調査に移行することにしました。当該サーベイはフルタイムの正社員全員を対象に電子フォーマットまたは書面で展開されます。3Mセンサスはグローバル全体で実施され、具体的に関連性のあるフィードバックを社内の主要ユニットに提供します(例：ビジネスグループ、事業部、拠点、国)。全社員が3Mセンサスに回答する機会が与えられ、2020年グローバルの回答率は70%でした。

3Mセンサスの手法では、当社のグローバル組織モデルに基づき組織を大局的に見るアプローチを取っています。当該調査を基準にし、働きがいのある職場であるため、また高い業績に欠かせない社員エンゲージメントやその他の職場の要素について定期的に評価を行っています。



グループリーダーは担当部門のセンサス回答結果をレビューし、グループメンバーに報告を行い、回答の中で挙げられた問題に対処するためアクションプランを実行しなければなりません。アクションプラン策定を通じてスムーズに変化を取り入れられるよう、センサスの回答結果に基づいてアカウンタビリティのチェック、取り組みの実行を支える具体的なツール等、プロセスへの支援体制を組み込みます。

社員エンゲージメントの向上に必要なポイントを特定し、リーダー向けにサポートを展開しています。会社の戦略と主要なイニシアティブとの整合性の確保のために、定期的にサーベイ内容进行评估し、必要に応じて更新します。

3Mセンサスの他にも社員の声に傾聴するサーベイを複数行っています。多くの場合、企業カルチャーの推進やパフォーマンスマネジメントの変更など、トランスフォーメーションの重要な取り組みを中心とした内容です。主に利用しているサーベイシステムに加え、革新的なクラウドソーシングのプラットフォームを今後も活用します。自由記載式の提案を直接、社員から得ることが可能で、サーベイ回答者の意見に基づきテーマ別にし、役立つレベルについてランキングを付けることが可能です。これは私たちの継続的改善の循環です。毎年、測定、評価、調整をすることで各サーベイが戦略上およびビジネスの目的に沿うようにし、社員の業務上の行動を通じて会社の持続的な成功に方向づけられるよう徹底しています。



その他のコミュニティへの貢献活動

CSRカウンスル

日本の活動

サイエンスでコミュニティに貢献

- 2025年末までに、社会的少数者を対象として、500万回の独自のSTEM分野と技能スキルを学ぶ体験を提供し、経済的公正・公平性を推進する。
- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの労働時間を寄付する。
- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。

3Mジャパングループではコミュニティへの取り組みを強化するため2021年度に社長をチェアとしたCSRカウンスルを立ち上げました。CSRカウンスルでは、ボランティア活動など社員が積極的に社会貢献活動を参画できる仕組み作り、3Mが解決すべきと認識している社会課題の解決に即したボランティア活動や助成金の提供などを進めています。ここ1年であった主な活動事例を紹介いたします。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンへの支援

2021年9月に3M Foundationを通じて、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンに5万ドル(約550万円)の支援を行うことを決定いたしました。これは各国の地域レベルで、基本的な人間のニーズへの対応や若者の育成を促進する活動を行っているNGOを支援するための取り組みです。この支援によって少しでも多くの若者が多様な学びの機会を得ることを願っております。

グローバル・ボランティア・デー

毎年9月から10月にかけてグローバル・ボランティア・デーとして世界中で多くの3Merがボランティア活動に取り組みます。

3Mジャパングループでは、オンラインによりオーディオブックの録音、STEM教育に関する翻訳ビデオの作成、キャリアに関するメンタリングのプログラムに、多くの社員が参加いたしました。

中高大学生対象 WE Talk “SOCIAL”

2021年4月には、認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとともに、中高生・大学生を対象に「WE Talk “SOCIAL” ——グローバル企業から学ぶ社会貢献のリアル」と題したオンラインワークショップを開催しました。

イベントではスリーエム ジャパンの社員が講師になり、学生にもわかりやすい視点でグローバル企業の社会貢献活動、ビジネスと社会貢献の両立などについて説明をしました。その後、中高生・

大学生を中心とした約40名の参加者とグローバル企業の社会貢献についてディスカッションも行いました。

動画コンテンツ「サイエンス アットホーム (Science at Home)」

子供たちが身近にあるサイエンスに触れ、科学の魅力を探究してもらうためのオンライン動画コンテンツ「サイエンス アットホーム (Science at Home)」の日本語オリジナル版を制作、公開しています。

この取り組みは、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での学びの機会が縮小する環境下においても、サイエンスのおもしろさをより多くの子供たちに届けるために開始されました。動画では、開発や研究に携わる社員自らが、日々の生活を快適にするサイエンスの仕組みと楽しさを解説しています。本コンテンツは、自宅での学習やリモート学習のカリキュラムなどにも活用いただけます。



危機管理・災害対応トレーニングやセミナーの提供

- 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。

安全衛生製品学術部では、お客様の安全と衛生向上の為、保護具等の正しい選択と使い方や、労働安全衛生に関わる様々なサポートを実施しています。

ここ数年は墜落制止器具などの教育とともに、コロナ禍を受けて感染症対策セミナーや、頻発する自然災害に対する災害対応へのニーズに著しい高まりがあります。

コロナ禍での災害対応等の集合訓練は難しく、リモートセミナーを主体として感染症対策セミナーを実施していますが、口コミなどもありセミナー依頼が増えています。

災害対応も同様で災害心理や災害対応組織などリモート環境下でも受講可能な内容を実施してきました。

2020年7月からは、金融機関や総合シンクタンクと協力した、企業の災害発生時の対応力向上を

目的とした「Emergency Response Team訓練サービス」の提供を開始しました。

安全衛生製品学術部の各種トレーニングやセミナーは、2021年度上半期には約5,800名の方々が受講し、大学(医学部や工学部)などでの講義や危機管理に関するセミナーなどで、組織の災害対応についてお伝えしています。



食品安全に関するオンラインセミナーの提供

- 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。

食品事業者の皆様にとって、たった1度の食中毒事故が取り返しのつかない事態を引き起こします。安全な食品を提供することは責務ですが、時代やお客様のニーズの変化に対応しながら、安全な食品を提供し続けることは簡単ではありません。

フードセーフティ製品事業部では、食品安全に関する情報を提供するため、2017年からオンラインで「3M食品衛生管理製品のご紹介・使い方」のセミナーを開始しました。

その後、「食中毒事故発生の原因と改善策」や「食品製造現場における病原菌汚染リスクのポイントと対策」等業界のトレンド・課題に合わせて、

様々なセミナーを実施してきました。

労働力の減少と人手不足、食品衛生法改正、コロナウイルスの流行、デジタル化・自動化の促進、SDGsなど、食品事業者は様々な環境変化・課題に直面されています。とりわけ品質管理部門は多忙を極める部門の一つです。

オンラインでのセミナーの開催は、忙しい品質管理部門の皆様からも「手軽に参加できる」と重宝いただき、累積で20件開催、約7,000人にご参加いただいています。

また、食品メーカー、検査会社、学会等との共催によるご要望や課題に沿ったテーマで実施することもでき、様々なテーマの取り組みが可能です。



食品衛生法改正！
国際標準化の時代に選択すべき試験法とは
～HACCP制度化から考える～

2019年4月16日
スリーエム ジャパン株式会社
フードセーフティ製品部



【事故事例から学ぶ】
病原菌事故に繋がる落とし穴と
品質管理部門主導の回避策

スリーエム ジャパン株式会社
フードセーフティ製品事業部

2021年9月28日～10月5日





子供科学実験室 ウィザードプログラム

- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの労働時間を寄付する。

3Mジャパングループでは近隣の小学生を招き、訪問し、科学教室を開催する社会貢献活動を1993年より行ってきました。「ウィザード」とよばれるこのプログラムは、企画から参加児童の募集、当日の運営まで技術系を含む各職種のすべての社員が自主的に行う、科学の面白さに触れる体験型のイベントです。

“WITHコロナ”に適応した リモート科学教室を開催

参加者が集合するイベント開催は見送りとなっていますが、2021年はオンライン型科学教室を開催しました。山形県の小学校児童を対象に開催した科学教室では、“微生物の科学”をテーマとし、手洗いや消毒の重要性を学びました。日常よく触る場所から採取したサンプルを「3M™ ペトリフィルム™」で培養し、生菌数を比較する実験を通して、参加児童からは「なぜ手洗い・消毒をしないといけないか分かった」、「もっと生物について勉強してみたい」という声が上がりました。

また小学校からは、実施の難くなっている課外活動が実施できたことや、完全リモートでIT環境を活用したイベントであり、文部科学省推進の“GIGAスクール構想”に合致している点、を評価されました。

これまでに、ウィザードプログラムに参加した子供は6,900人以上、参加した社員は4,000名以上に上っています。3Mジャパングループでは、“WITHコロナ時代”の社会貢献活動を進めています。



2019年当時のウィザードの様子

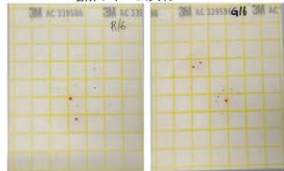
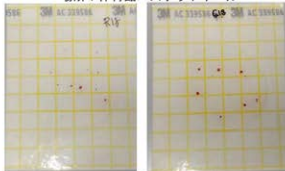
微生物の科学

実験結果

- 培養結果の写真をいくつか紹介します。

場所：体育館バスケットボール

場所：ネーム入れ



一般的に、1個の細菌は目に見えませんが、約10万個以上になれば細菌のかたまりである「コロニー」として目で見て数えられるようになります。大きさは関係なく、1点が1コロニーです。

リモート科学教室



「夏のリコチャレ 2021 ～できると楽しい。そうか理系って面白い!～」 中高生・女子学生に理工系分野に関心を持ってもらうイベント

- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についての
プログラムのため、資金と製品を投資する。

2018年から開催している「リコチャレ」イベントを2021年は8月20日(金)に「夏のリコチャレ オンラインイベント」として開催しました。

「リコチャレ」は「理工チャレンジ」の略で、女子中高生・女子学生に理工系分野に関心を持ってもらい、将来の選択肢の拡大を支援する目的で、内閣府男女共同参画局が中心に実施している取り組みです。3Mジャパングループでは、「イノベーションの源となるアイデアを生み出すためには、多様性が必要不可欠である」と考え、3年前から「リコチャレ」に参画しています。

イベントを通じて理工系分野の実務経験や醍醐味を発信することで、サイエンスに携わる仕事に対する理解を深めます。また、女子学生の理工系分野におけるリテラシー向上を支援し、今後のキャリア選択を後押ししています。



イベントの冒頭では代表取締役社長の宮崎がイノベーションにおける多様性の重要性を語りました。本イベントをオンラインで実施したのは今回が初めてでしたが、近隣だけにとどまらず、関東圏以外の学校からも女子学生が計17人参加しました。

3M Science. Applied to Life.™

参加無料

夏のリコチャレ2021 オンラインイベント
2021年8月20日(金)13時～15時(予定)

できると楽しい
そうか理系って面白い!

内容: 女性技術者がオンラインで理系の仕事を紹介します
(申し込みいただいた方にオンライン参加方法をご案内します)
対象: 女子高校生

応募はこちら

リコチャレとは

3Mはこんな会社

参加申し込みはEメールで
rikochallenges@mmm.comまで
①氏名 ②学校名 ③学年
④Eメール ⑤電話番号



環境・健康・安全

(EHS: エンバイロンメンタル ヘルス セイフティ)

マネジメント

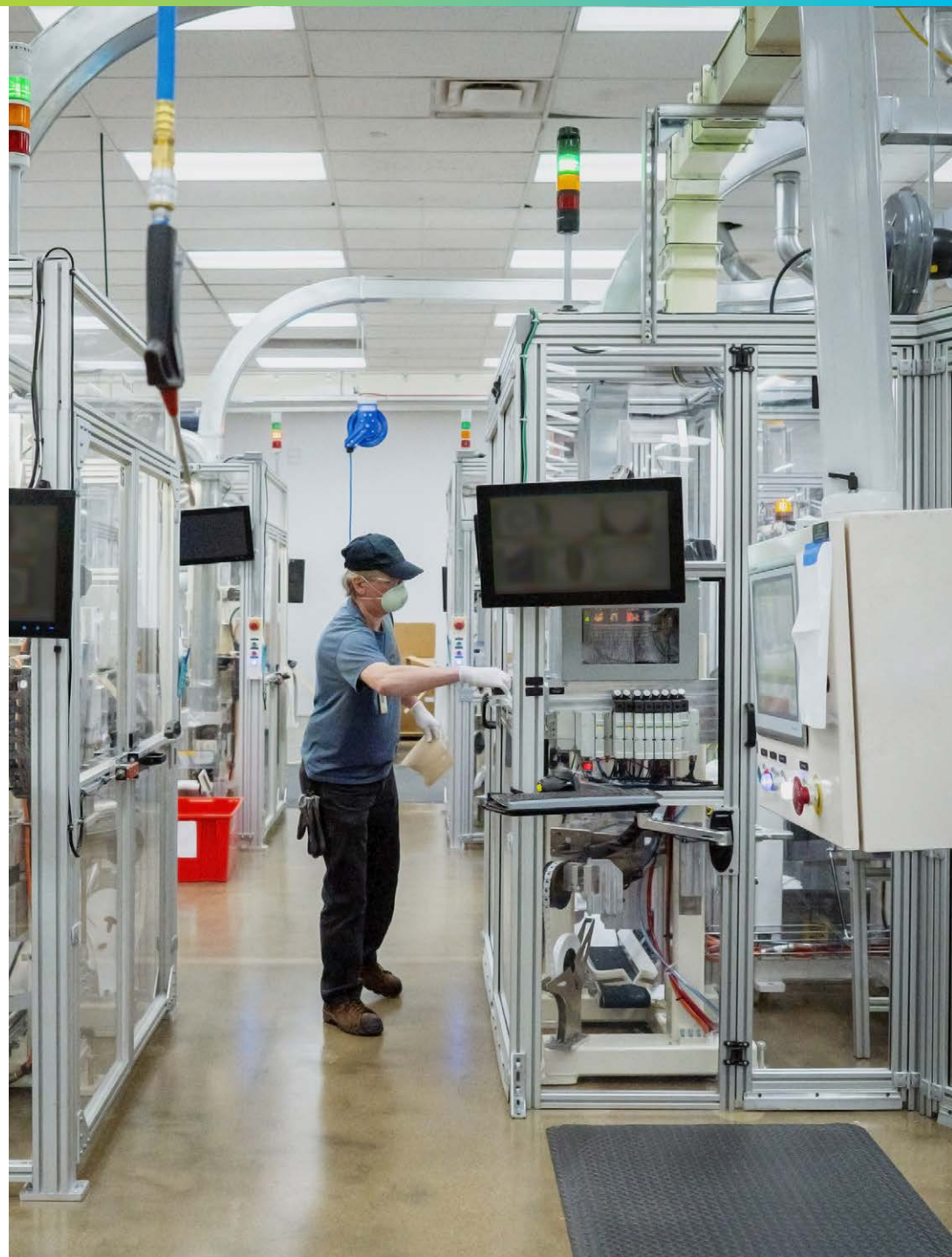
人々と環境への配慮

私たちのコミットメント

3Mは、職場の安全にサイエンスとイノベーションをもたらすため、世界的な取り組みの最前線にいます。同時に、世界中で96,000人の社員を擁する企業として、私たちは常に社員の安全、健康、ウェルビーイング(幸福、幸せ)をさらに向上させるための措置を講じています。私たちの最優先事項は、社員と一般市民の安全です。

COVID-19の世界的大流行を受けて、3Mは、労働安全衛生プロトコル、リモートワーク、会議、出張規制に関する最新のガイダンスを社員に提供しています。3Mは、安全にビジネスを継続しながら、世界中の社員の安全を保護するための事前対策計画を実施しました。

**私たちの最優先事項は、
社員と一般市民の
安全です。**



環境・健康・安全(EHS)ポリシー

1975年に作成された3M環境方針(3M Environmental Policy)は、環境マネジメントと資源保護の枠組みを確立し、汚染源での汚染の防止に重点を置いています。私たちは環境および社員、地域社会の人々の健康と安全に対する潜在的なリスクを特定し、これらのリスクに対処するためにプロセスや製品設計、基準を変更する措置を講じます。情報とテクノロジーを活用して当該リスクを評価し、データシステムとテクニカル分析を通じてコンプライアンスを推進します。

当社のオペレーションおよび製品による環境への影響を低減するために引き続き多額の投資を行い、世界中で適用されるすべての環境要件に準拠することをお約束します。私たちは、お客様が環境への影響を減らし、自身のサステナビリティゴールを達成できるように、サステナブルな特性を製品に組み込みます。

3M安全衛生ポリシーは、新規買収事業を含め、3Mオペレーションが行われている場所全てに適用されます。3Mの職場における危害要因(ハザード)は、3Mの社員、訪問者、事業所および周辺のコミュニティを保護するために、十分に理解し、効果的に管理する必要があります。

さらに、安全衛生基準を引き上げる機会を引き続き査定しています。「事業所訪問を行い、環境・健康・安全(EHS)のリスクを特定して管理」、「規制要件の順守と3Mポリシーおよび基準の準拠を評価」、「継続的な改善の機会を特定」、「社内外の模範的な実施例を共有」を行います。

3Mは、世界中でレポートと指標の一貫性を保証するために、多くの多国籍企業と同様に、米国労働安全衛生局(OSHA)の記録管理規則と慣例に従って、世界中の怪我や病気の発生率を記録し測定しています。3Mの運営管理下にある日本を含むすべての事業所で、正規雇用者と非正規雇用者が、当社の怪我と病気の記録管理規則の対象となっています。



EHS管理基準

3MのEHS管理基準(EHS management standard)は、製造およびサプライチェーン、R&Dのオペレーションに適用されるEHSの要件を定義しています。EHS管理基準は、セルフアセスメントおよび監査プロトコルの土台となります。新規買収事業を含むこれらのオペレーションに対しては、この基準の一部として少なくとも年に一度は、EHSマネジメントシステムのセルフアセスメントを完了することが求められています。このアセスメントは、環境、健康、安全に関連する様々な分野と基準に対応する複数の要素に分類されます。

3Mの医療プログラムとサービス

3Mは、健康とウェルビーイング(幸福、幸せ)に影響を与える職場の潜在的なストレス要因を特定してコントロールすることにより、健康カルチャーの促進に取り組んでいます。社員は、疾病予防と健康改善を促進する3Mの健康とウェルビーイングプログラムを利用することが奨励されています。人財は当社の最も重要な部分を占めています。

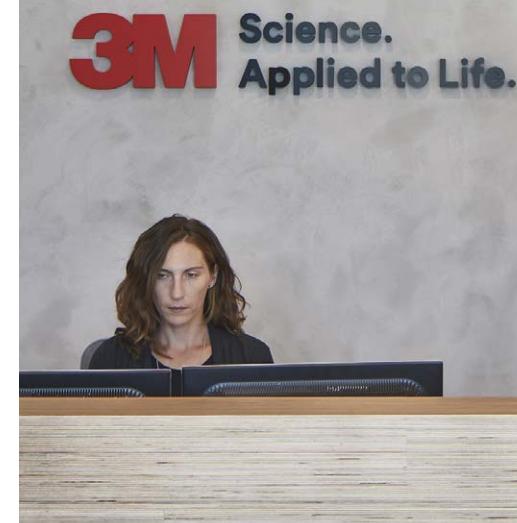
3Mは、健康的なライフスタイルを支持し、従業員が職場と家庭の両方で最高の状態でいられるように、心理的に安全な職場環境を作り出すことを目指しています。

職場のセキュリティ

3Mは事業拠点の安全確保および監視を行い、3Mの従業員、財産、資産、およびオペレーションを保護するため、脅威を軽減し、リスクインテリジェンスの収集支援をするツールとリソースに投資しました。

3Mの事業所はセキュリティバッジで入館管理されています。制服姿の警備担当者が、インシデント、紛失または盗難、不審な物品や人物など、緊急事態であるなしにかかわらず従業員と訪問者をサポートおよび補助します。

3Mはセキュリティインテリジェンス監視システムに投資してきました。脅威が特定されると、リスク軽減と調査の担当マネジャーは、セキュリティの専門知識とガイダンスを事業部門や事業所に提供します。3Mのグローバルセキュリティオペレーションセンター(GSOC)は、世界中のリスクとインテリジェンスの出所を監視し、重大事態ではローカルオペレーションをサポートします。



3Mは、様々なツールを使用して、職場のEHSリスクを管理しています。



インシデントと危機管理

3Mはグローバルな事業を展開する全地域において、深刻／重大／危機的事態を未然に防ぎ、事前対策を整え、対応し、さらには回復を支援するための計画とプロセスを整備しています。

GSOCを通じて管理される通知およびコミュニケーションのプロセスにより、対応チーム、リーダーシップ、および対象分野の専門家(SME)に情報が提供され、対応措置が開始されます。重要なEHS事象またはセキュリティ上の脅威が発生すると、メッセージが従業員に通知され、当該の重大または壊滅的な事象の発生後、人々の安否を確認するための応答システムが提供されます。3MのCorporate Crisis Action Team(CCAT: コーポレート危機対応チーム)は、危機的状況において、グローバルでリーダーシップや指示を提供し、調整をします。

詳細については[グローバル版「Enterprise risk」](#)セクションをご覧ください。



プロセスハザード管理

3Mは、大惨事となる火災、爆発、有毒物質の突然の放出を引き起こす可能性のあるプロセスなど、危険を伴うプロセスに関連するリスクの厳密な管理にコミットしています。

有害プロセス評価ツール(HazPET)を使用し、危険なプロセスを分類します。プロセスハザード分析(PHA)を用いて、既存のセーフガードの有効性を評価します。また、防護層解析(LOPA)も、セーフティクリティカルなデバイスやシステムを評価するために使用される場合があり、独立防護層(IPL)に一層の注意を払うことができます。施設の立地評価は、一部の拠点で働く作業者に影響を与える可能性のある「最大な起こりうる事象」シナリオを特定し、その事象の軽減に役立たせます。

プロセスハザード管理は、潜在的な可燃性粉塵ハザードの効果的な管理に関する、3M事業所への既存のガイダンスに基づいた、グローバルの新しい取り組みです。

危険なプロセスを管理するもう1つの方法は、機械的完全性プログラム(MIP)の使用です。これらのプログラムは、製造現場が重要なプロセス機器を管理して、最も効果的かつ安全な方法による運用と保守の保証に役立ちます。

グローバルと日本の活動

グローバルEHSポリシー、管理システム、および主要業績評価指標を策定し実施することで、3Mは、グローバルで4つのビジネスグループの継続的な統一性を高め、改善を推進し、一貫性のあるイノベティブなEHSの思考が持てるよう徹底しています。

3Mは、様々なツールを使用して、職場のEHSリスクを管理しています。当社は、この数年間、環境コンプライアンス、生命の安全、プロセスの安全、産業衛生、そしてエルゴノミクスの分野で、専門的ツールを目的に合致したかたちで使用してきました。これらの各分野では、多くの場合コンプライアンスの域を超えて、リスク管理アプローチを使用して、リスクレベルを分類し、適切なレベル管理を定義します。

環境マネジメントシステムの実施

当社は、世界中で環境マネジメントシステム(EMS)フレームワークを継続的に進展させています。

3MのEMSフレームワークは、プログラムを実施するための仕組みと一貫性を提供し、環境への取り組みにおける会社の姿勢を、事後対応モードではなく事前対策モードにします。

当社は、全社的なEHSの管理とパフォーマンスに関する関連情報を特定、追跡し、そして管理するための広範なグローバルシステムを導入しています。これには、3Mのオペレーションに関連する環境コンプライアンスと、運用パフォーマンスの指標の全範囲をカバーすることが含まれ、その一部はこのレポートで提供されています。

2020年、3Mは約
5,500万ドル
を環境を目的とする
投資計画に
支出しました。



環境への投資

2020年、3Mは環境目的の投資計画に約5,500万ドルを支出しました。環境目的の投資計画には、水使用量削減および水質改善装置、洗浄装置、格納構造、溶剤回収装置、およびサーマルオキシダイザーなどへの投資を伴う、廃棄物削減や汚染防止プログラムが含まれます。同様のプロジェクトの設備投資は、現在、2021年と2022年の合計で約4億ドル近くになると予想されています。現在または将来の収益に寄与しない、過去の事業によって現在起きている環境支出は、費用計上されています。

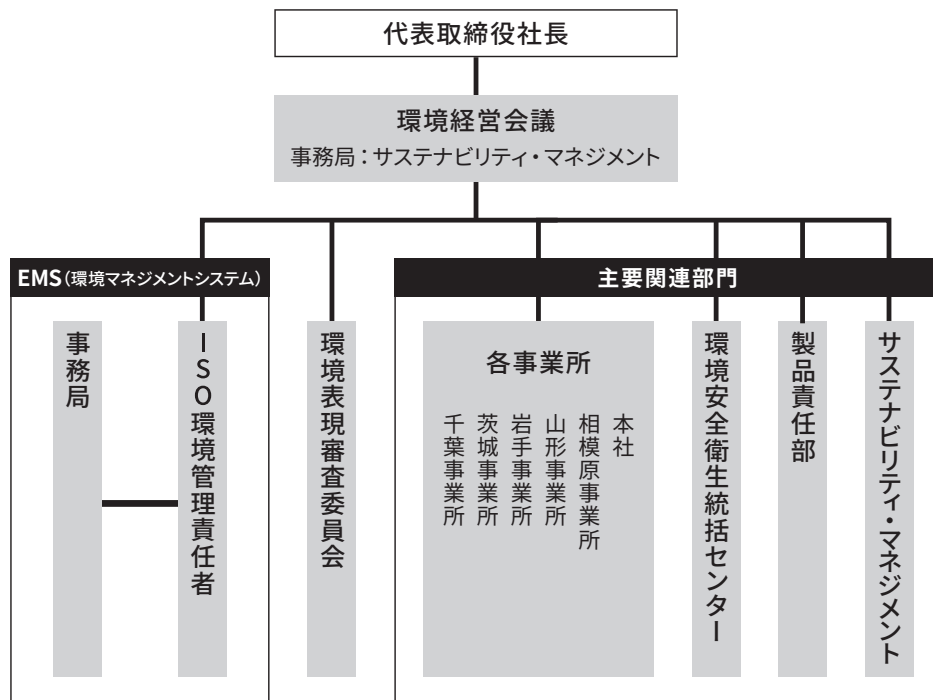
3Mは、一元的に調整された投資アプローチに従って、リスクを軽減し、**戦略的サステナビリティフレームワーク**に合わせて持続可能なテクノロジーの実施を促進します。

日本の環境マネジメント体制

日本でも環境・健康・安全活動を包括するマネジメントシステムとして「EHSマネジメントシステム」を導入しています。3Mジャパングループの環境マネジメント体制は、全体を統括する環境経営会議のもと、ISO環境管理責任者、環境表現審査委員会と、サステナビリティ・マネジメント、製品責任部、環境安全衛生統括センターおよび各事業所から構成されています。

環境監査に当たっては、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る為、各事業所で内部監査を実施しています。各事業所はそれぞれの部門・グループでエネルギー削減や廃棄物削減などの環境プログラムに積極的に取り組んでいます。

3Mジャパングループ 環境マネジメント体制



日本の環境方針

2020年12月、3Mジャパングループでは、1998年に策定した「3Mジャパングループ環境方針」の2回目の改定を行いました。3Mジャパングループの環境方針は、1975年に3M社が定めた環境方針を基に、日本の社会的状況などを反映して策定したのが始まりです。

環境問題への取り組みが地球規模で推し進められる中、さらにはサステナビリティ活動の高まりを受け、3Mジャパングループの姿勢を始めその実現のための活動を今後も継続的に実践することを、より明確に打ち出しました。

3Mジャパングループ環境方針

3Mは、長年にわたって環境管理の責任と資源保護の必要性を認識してきました。それと同時に、3Mは、環境問題が地球規模のものであるととらえ、国際的な環境保全を実現するには建設的な協力が重要であると考えています。

3Mは、国や地域の法律を確実に遵守するための要件を定めています。3Mジャパングループは、組織全体の環境意識を高め、環境へのダメージを回避するために、適用されるすべての法規制

および関連する行動規範に基づく法的義務を履行します。この方針に従う包括的な責任は、3Mジャパングループのすべての活動に適用され、その実現においては、社内のEHS（環境安全衛生）、および製品責任組織と連携します。

責任ある環境管理と資源の保護に対する3Mの取り組みを支援するため、3Mジャパングループは次のことを行います。

- 自社が原因となる環境の汚染と保護の問題は自らの手で解決する。
- 持続可能な環境を実現する製品を開発する。
- 環境汚染は、可能な限り設計段階から対策を行い、発生源で予防する。
- 廃棄物の発生防止、再利用、リサイクル、および最適化された製造活動を通じて、天然資源を保護する。
- 施設および製品が、国内の環境法令を遵守していることを保証する。
- 可能な限り、環境保全活動に携わっている公的機関および民間団体の活動に協力する。
- 会社および従業員は継続的な改善を率先して推進する。

これらの要件を遵守しない場合、懲戒処分に至る場合があり、これには解雇も含まれる。

1998年3月制定

2020年12月1日改訂



グローバルにおける ISO 14001の適用

ISO 14001環境管理システム(EMS)規格は、組織の製品、サービス、そしてプロセスの直近および長期的な環境インパクトを管理するための国際的に認知された取り組みです。

グローバルでは ISO 14001認証を取得している 拠点は全て合わせると、 TVOS(原価ベースの生産高)

77.4%



に相当します。

ISO 14001と日本の活動

3Mジャパングループでは全事業所、全組織、全製品、サービスでISO 14001認証を取得・継続しています。2015年版への移行は完了し、更なる環境マネジメントシステムの改善に努めています。

3Mジャパングループ サステナビリティ目標： Environmental Target 2025

ゴール	2020年度目標・実績	判定
1 廃棄物：2015年を基準年として、2020年までに原単位で10%削減	10%減 → 46.5%減	○
2 エネルギー使用：2015年を基準年として、2025年までに原単位で30%削減	15%減 → 4.9%減	△
3 水使用の削減：2015年を基準年として、2020年までに原単位で10%削減	10%減 → 2.8%減	△

日本のサステナビリティ目標とET25 —Environmental Target 2025

2016年1月、3Mジャパングループは、環境負荷削減活動の継続とさらなる改善、“持続可能な発展”に向けた活動を推進することを目指して、「ET25(Environmental Target 2025)」を策定しました。そして2017年1月には3Mジャパングループのサステナビリティ目標を設定し、ET25はISO 14001活動に組み込まれました。ET25は新たに設定された3Mの戦略的サステナビリティフレームワークの中の3つのコミットメント

サイエンスで循環型経済に貢献：

- 2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。
- 2025年までに世界的な水の使用量を売上対比で更に10%削減する。

サイエンスで気候変動に貢献：

- 2025年までに純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。

と密接にリンクしています。

ET25では2025年を最終年として3つの目標を設定するとともに、それぞれ2015年を基準年とし年度毎に目標数値を掲げて活動を推進しています。

2025年までの中間となる2020年は、廃棄物は、ET25の削減目標である10%減に対し46.5%の削減となり、年度目標に掲げた数値を大幅に上回る改善結果となりました。岩手事業所の積極的なマテリアル／サーマルリサイクルの推進が貢献しました。

一方でエネルギーと水の使用量については、新型コロナウイルスの影響で生産量が落ち込んだことから、エネルギー原単位で目標値の15%減に対して実績が4.9%減と目標未達、水使用量原単位では目標値の10%減に対して2.8%減と同じく目標未達に終わりました。

今後も全社的な取り組みを継続するとともに新たな削減機会を模索して、より一層改善を進め、エネルギー、廃棄物と水の使用全てに対して、2025年でのゴール達成を目指します。

環境活動賞

「環境活動賞」は、3MジャパングループのISO 14001登録プログラムを対象に、環境保全や環境関連ビジネス成長に大きく貢献した活動をたたえる表彰制度です。受賞プログラムは、設備・施設・工程の改善により省エネルギーを達成したものの、廃棄物、原材料の削減や生産コストの改善をしたもの、輸送燃料を削減したもの、新技術の開発によりお客様の環境課題を解決したものなど多岐にわたります。

受賞プログラムが他部門で展開されたり、新たな活動のヒントになることも多く、環境活動賞は社員の環境活動に進化をもたらす存在ともなっています。

環境活動賞 2021 ISOプログラム概要

カテゴリ	部門	プログラム	活動概要
ISO 14001環境 プログラム	製造	新規テクノロジー導入による塗工プロセス段取り替え時の廃棄物削減	別目的で開発された新規テクノロジーを応用展開し、塗工プロセスの段取り替え時に発生していた、固形糊廃棄物を46%削減した。
		溶剤回収装置の新規導入と既設装置へのプロセス展開	新規溶剤回収装置の導入と共に、休止していた溶剤回収装置へも新たな回収プロセスを応用するオペレーションを確立。溶剤回収能力を60%以上向上させた。
		吸音材製造段取り替え時の廃棄物削減	段取り替え時の設定条件の改善と条件設定変更時間の短縮により、段取り替え時に発生した廃棄物を4%削減した。
		焼却炉蒸気発生量改善による貫流ボイラ運転負荷削減	廃熱ボイラの各種条件を最適化することにより蒸気発生量を7%向上させ、かつ常時監視による蒸気発生量のコントロールにより、貫流ボイラの運転負荷を削減させ、灯油消費量も削減した。
		製造設備の熱源上昇対策による電力削減	製造室温上昇を抑える目的で、熱源となっていた製造機の輻射熱をおさえる耐熱ジャケットを装着。空調温度設定値を2℃改善し、エアコン消費電力を13%削減した。
		梱包材リサイクルによる廃棄物削減	製造原材料起因の包装材をリサイクルし、2%にあたる事業所全体の廃棄物を削減した。
		焼却炉運転時間延長による都市ガス使用量削減	効果的な燃料補助剤の使用により焼却炉運転および廃熱ボイラ稼働の最適化をはかり、都市ガス使用を削減した。
		キャリアテブ取り数増加による廃棄物と使用電力削減	プロセス改善の設備設計とその導入、更には使用条件の最適化による廃棄物と使用電力を削減。
環境ソリューション 新製品	R&D	スタッフ	FAX問い合わせ削減による紙の使用量削減
			Webサイト、カタログ等のFAX番号掲載を中止し、FAX受注件数を抑制することによって、前年度比で50%以上の紙使用量を削減。
			スコッチ・ブライト™ すごいボトル洗い
			製品製造工程では材料となるプラスチック使用量削減する製品設計を行い、製品使用では汚れ落ち性能の高さにより年平均で約6,200Lの使用洗剤を削減。
			3M™ ダイノック™ フィルム EXシリーズ
			製造工程では既存品対比で大幅な使用電力量を削減し、製品使用時では既存の各施工法に対し施工時のVOCの大気放出を「0」、使用溶剤や廃棄物の削減に貢献。



事業拠点のセルフアセスメント と監査

3Mは、規制へのコンプライアンスとEHS管理基準との整合性を検証し、拠点固有のEHSの複雑さに基づいて標準化されたスケジュールでEHS関連の監査を実施します。

EHSマネジメントシステムは、グローバルのすべての3Mの拠点に適用されるEHS要件を定義し、世界中の3M製造、サプライチェーン、R&D拠点でのEHSセルフアセスメントおよびEHS監査プロトコルの一貫性を高めるように設計されています。これらのオペレーション(と新たに事業買収した企業は進捗状況に基づき)は、少なくとも年に1回はEHSマネジメントシステムのセルフアセスメントを完了する必要があります。アセスメントからのデータは、監査、対象分野の専門家による現場訪問、およびその他のデータシステムを通じて検証されます。

2020年以降、3Mは、EHSおよび化学物質管理監査プログラムに以下を追加してクラス最高の機能を構築しています。

- 拠点が独自にプログラムを監査できるようにする新機能として次を追加。拠点の監査プログラムに属さない3M専門家の参加。社外の専門家が3Mの拠点を訪問して監査する。
- コンプライアンスおよび管理システムの対象範囲を拡大。
- 拠点の排出量の物理的監視の強化。
- 基盤となるプロセスの定型化された定期評価を利用し、EHS要件を決定し、オペレーションに伝達する。

2020年、当社のEHSサイト監査は、transfer value of shipments (TVOS: 原価ベース生産高)の33.1%を製造した拠点を対象としました。

監査の主要目的

グローバルリスクとコンプライアンスの管理

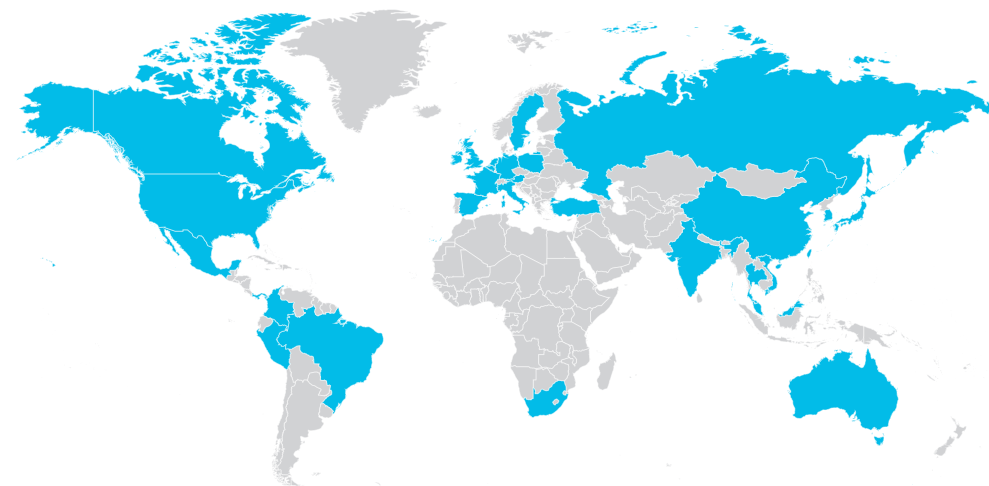
コンプライアンス の維持	環境 スペシャリスト を育成	リスクを管理
ベストプラクティス を共有	改善のための 共通分野を 特定	要件について 共通の理解を 構築

3MのEHS監査プログラムは、3Mのコーポレート監査部門によって定期的に監査を受け、監査プログラムのスコープ改善、対象となるすべての事業所に全面的に対応し、EHS監査結果が検証されます。

すべてのEHS監査員は、3M EHS監査員ガイドラインの重要な側面をカバーする認定試験を受ける必要があります。3M EHSの専門家が、監査チームまたは主任監査人に任命され、監査期間中、監査プロセスおよびまたは特定の事案に関するサポートを提供します。



3M EHS 監査実績 (2016-2020)



コンプライアンス分析、文書化、 および検証

製造現場の監査の一貫性を高めるために、3Mは電子システムであるCompliance and Auditing Management and Metric Systems (CAMMS)を使用しています。当該システムのコンプライアンスモジュールは基本的に米国とカナダを対象としたものですが、CAMMSは、環境コンプライアンス要件と判定情報を保持するためのグローバルで使用可能なシステムで、日本でも使用されています。CAMMSを使用して、適用される規制要件および会社のポリシーと基準に照らして、内部コンプライアンス監査を実施することができます。さらに、CAMMSはリスク評価ツールを利用し、是正措置を実施するため、リソースに優先順位を付けることができます。



事業所環境アセスメントと その強化

3MのEMSフレームワーク以外では、3Mは、潜在的な過去の責任を特定するため、大半の拠点で事業所の環境アセスメントを完了しています。これらのアセスメントにより、3Mの敷地内またはその近隣を含む生物多様性保全地域を特定できます。

COVID-19パンデミック時の 社員の安全と健康

3Mは、病気の蔓延を最小限に抑えることで社員の安全を守るために、私たちの責任を真剣に受け止めています。COVID-19パンデミック禍の対応と回復への様々な段階において、3Mは変わらず社員と一般市民の安全を守ることにコミットしています。3Mは、日本を含むグローバル全体での製造、サプライチェーン、およびR&Dオペレーションで様々な新しいプロトコルを制定し、エッセンシャルワークに従事する社員の感染の可能性を軽減すると同時に、コロナ禍への対応が重要とされる製品の生産を維持しました。

当社のオペレーションでは、献身的なエッセンシャルワーカーが継続してパンデミック対応を推進しています。これは、感染のリスクを軽減するために、入念な対策をし、健康と安全のプロトコルが順守されていることを意味します。3Mの各拠点のリーダーシップチームは、安全なオペレーションの 방식을継続的に評価および強化するため、疾病予防コーディネーター／産業保健看護師、および米国疾病予防管理センター（CDC）や世界保健機関（WHO）などの、世界中の公衆衛生当局および各地のコミュニティと引き続き協力して取り組んでいます。



3Mは、COVID-19パンデミックの動向を積極的に観察することで、社員の健康と安全を守るための予防措置を日本を含めたグローバル全体で適応させ、職場でのフェースカバー（マスク）の着用に加え、身体的距離の確保、衛生的行動の強化、除菌消毒、追加のトレーニング等のプロトコルを実施しました。

2020年の初め、COVID-19禍において、社員の健康と安全を優先するために、日本を含むグローバル3Mの、オフィスビルと外勤の社員の大部分がリモートワークに移行しました。当社のグローバルなパンデミック対策計画は、コーポレート危機管理チームによって運営され、フェーズに則したアプローチを行います。現地の状況に合わせ

てフレームワークを調整するため、出張やフィールドオペレーションの再開については慎重かつ柔軟性のあるアプローチを取ります。私たちは引き続き社員の健康と安全を中心に考えるとともに、事業継続性を確保し、お客様のサポートを維持する必要性を認識しています。

EHSカルチュラル・ エクセレンス・プログラム

EHSカルチュラル・エクセレンス・プログラムでは、日本を含む世界中の全拠点においてEHSカルチャーを継続的に強化することを目標としています。そのための一つの主要指標が、各拠点

のリーダーシップが社員との活動に積極的に参加することです。2020年、この実証済みのカルチャー向上のイニシアティブを活用し、COVID-19の蔓延を防ぐために世界中で取り組みを実施しました。その目標は、COVID-19陽性者の濃厚接触者と特定される同僚をゼロにすることです。このような取り組みが、COVID-19のパンデミックに迅速に対応し、最優先事項である人々の安全を維持しながら、事業の継続性の確保に役立ちました。

このプログラムの仕組みに社員が参加することで、私たちは組織として、リスクを理解して軽減し、安全慣行に従い、安心して個人的な懸念を提起して、懸念される行動に対応することができました。



健康的な生活

健康、富、ウェルネス、および回復力というテーマのもとに作成した枠組みで、社員とその家族がウェルビーイング(幸福、幸せ)の目標の達成に役立つよう設計された様々なプログラム、リソース、およびサービスが用意されています。2020年のプログラムとサービス内容は世界各地で異なります。例えば、無料のインフルエンザの予防接種、カフェテリアでの健康志向のメニューオプション、オンサイトのフィットネスセンターと医療(パンデミックのため利用は限定的)、遠隔医療、養子縁組と養護施設のサポートや、日本でも取り組んでいるワークライフバランスを奨励するFlex Abilityプログラムなどがあります。Flex Abilityプランでは、社員に、社員自身、仕事、チーム、友人や家族、および3Mにプラスとなるよう選択をする権利が委ねられています。

EHSインシデント管理

2010年以降、世界中のすべての3M事業所が、EHS 360と呼ばれる1つの専用システムを通じて、実際のインシデントと潜在的なインシデントを社内でも報告する(つまり、リスクを特定する)ことが必須とされています。実際に発生した、または潜在的なインシデントには、怪我または病気、火災または爆発、流出、当局からの通知、および罰金が含まれますが、これらに限定されません。

EHS 360は、責任の認識、包括的なシステムの理解、および3Mのグローバルオペレーションの、より一貫性のある報告要件に関連して継続的な改善をもたらしました。

SIE(重大な怪我や事象)発生率

2014年以降、128,000件を超える内部リスク評価の結果で、10,500件のSIEをもたらす可能性が高い行為を含む、36,000件以上の行為に関するリスクが特定され、リスク削減に繋がりました。

2019年には、内部分類基準を精緻化および拡大しました。SIEは、機能障害、身体障害およびその他の配慮事項で広く定義されています。また、火災、流出などの負傷や病気ではない事象および、はしかやおたふく風邪などのCOVID以外の感染症の発生も含まれます。2019年に、SIE発生率のベースラインを確立しました。

2019年から2020年に
かけて
SIEの数は
14.3%
減少



エルゴノミクスリスク管理

3Mのエルゴノミクスリスク削減プロセス(ERRP)は、人間工学に基づいた職務分析とエンジニアリング設計基準を統合して、一般的に特定されている筋骨格系障害(MSD)のリスク因子に曝される機会を減らすグローバルの包括的なプログラムです。リスク削減を達成するために、エルゴノミクスのリスク評価ツールをグローバルに適用して、産業環境における人間工学的リスクを特定し評価します。

2019年は、日本を含むすべての製造拠点がエルゴノミクスに基づいたフットプリント評価を完了し、年間の削減目標設定を行うことが必須とされました。

2020年には
1,400
を越える、高いリスク因子への曝露
を削減し、社内目標を上回りました。





イノベーション マネジメント

サイエンスを通じて持続可能なソリューションを創造する

私たちのコミットメント

3Mでは基本的なことです——私たちはサイエンスを基盤にした企業であり、人々の暮らしをより良くするためにサイエンスを用いています。社会の課題が変遷するにつれて、私たちのサイエンスの焦点も変わります。

1921年に世界初の耐水性研磨布紙を開発したところから始まり、今日の自動車の電動化支援まで、3Mは当社の技術を絶え間なく革新し、適応させて、会社の持続可能な成長を推進しながら、今日と明日の問題の解決のために役立てています。

イノベーションは3Mの根幹に組み込まれています——中興の祖であるWilliam L. McKnight(ウィリアム・マックナイト)のMcKnight Principles(マックナイトの原則)に、社員が勤務時間の

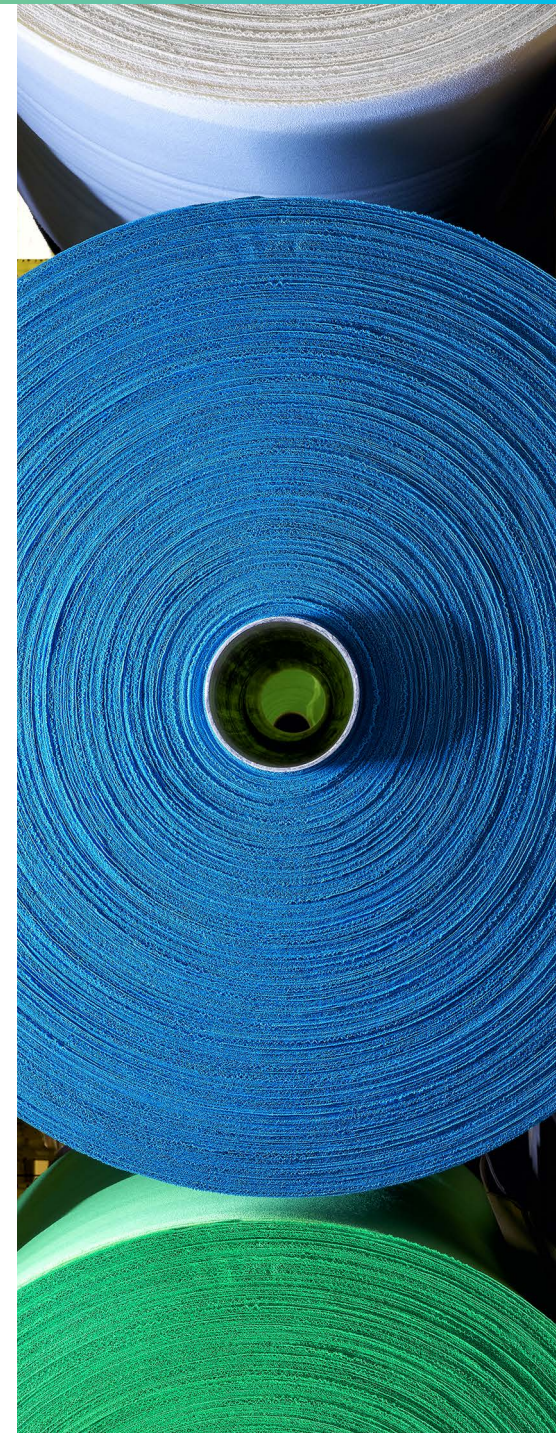
15%を自分で選んだプロジェクトに自由に費やすことができる、3M独特の「15%カルチャー」の源流があります。この15%カルチャーでは、普段とは異なる関係を通じてイノベーションを開花させることが奨励されています。3Mの技術者たちは、当社の持つ多くのテクノロジー同士を関連させ、興味深いリンクを作ることによって問題を解決します。

当社の**51のテクノロジープラットフォーム**は、様々な業界向けに独自の製品を開発するために、ビジネスやエリアの垣根を越えて共有し、組み合わせられて用いられています。これらのテクノロジーを所有しているのは単体の事業部門レベルではありません。51のテクノロジーは会社レベルで管理されており、それぞれのお客様や業界のためにどの事業部門でも使用できます。

51のコアテクノロジープラットフォームの1つは、サステナブルなデザインです。これは、サステナブルな設計を製品、プロセス、およびパッケージに組み込む機能に関するものです。

「2019年以降、新製品の商業化プロセス上にある製品の100%が、サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を含むことを必須とする」という正式な目標の達成が、サステナブルな設計であることを実証する一つの方法です。サステナビリティをR&Dプロセスに組み込むことで、3Mの成長を支え、私たちのビジネス、地球、そしてすべての人の暮らしをより良くするというコミットメントを推進することができます。

3Mのすべてのビジネスが、テクノロジー、ものづくり、グローバル展開、ブランドという私たちの基本的な強みによって結びつき、広大なグローバルネットワーク全体で製品を発明、製造、販売することができます。



製品の安全性および品質、 スチュワードシップ ガバナンス

当社のお客様は、ビジネスをさらに前に進め、毎日の暮らしをより快適にし、そして明日をもっと豊かにするために3Mの製品を頼りにしてくださっています——そして、私たちにはお客様のそのような期待に応える責任があります。そのためには、最高品質の製品だけを作るよう取り組まなくてはなりません。3Mが販売する製品はすべて、厳格な品質基準を満たし、意図された用途に対して安全でなければなりません。私たちが誠実さと自信を持ち、共通して根底にある3Mの**行動規範**を用いて前に進めるべく、ポリシーと基準が整備され、それにより当社のイノベーションに対するコミットメントは管理されています。

行動規範では、3Mの社員と3Mのサプライヤーが満たさなければならない私たちの価値観と責任が定義されています。この幅広い価値観の下には、様々な状況に対し倫理的であると3Mが考えるアプローチを具体的に概説する原則、ポリシー、基準、およびガイドラインがあります。この中には、3M製品のイノベーションマネジメントに関わる内容のものも含まれます。

製品の安全性および品質、スチュワードシップは、**Product Safety, Quality, and Stewardship Principle**（製品安全、品質、スチュワードシップ原則）で述べられているように、3M製品の設計、製造、マーケティング、および販売において常に検討されるべき重要事項でなければなりません。3Mの社員は、適用される法律や規制、製品の安全性、品質、および管理に関する3Mのポリシー、基準、および手順をすべて理解し、順守する必要があります。懸念事項を報告して対応しなくてはなりません。

3Mの経営陣は、報告された懸念に対処し、3Mの社員が、適用される法律や規制、および3Mのポリシー、基準、手順について適切なトレーニングを受けることを保証する責任があります。

当社の**Product Safety, Compliance, and Stewardship Policy**（製品の安全性、コンプライアンス、およびスチュワードシップポリシー）は、以下を満たす製品を商品化し販売するという当社の取り組みを明確に示しています。

「意図された用途に対して安全である。」

「適用されるすべての環境と安全衛生（EHS）規制に準拠し、3Mの期待を満たしている。」

「製品および対応する製造プロセスのEHSパフォーマンスを継続的に改善する目標のもと開発されている。」

さらに、製品の再利用（Reuse）や新たなものへの作りかえ（Repurpose）を含め、ライフサイクル全体にわたって環境パフォーマンスが実証されている製品を作ることが私たちの責任であると考えています。サプライヤーやビジネスパートナーのオペレーションにおいても、これと同じ目的が支持されるよう、私たちはサプライヤーやビジネスパートナーと協力します。

当社取締役会のサイエンス・テクノロジー・サステナビリティ・コミティは、お客様の絶え間なく変化するニーズに対応する製品を開発すると同時に、開発する製品は人々や地球に害を及ぼさないことを保証する、という2つの要求事項が実現するよう監督します。

グローバル版の「Suppliers」および「Our customers」の項で詳細を参照してください。





化学物質管理ポリシー

3Mは、人々の暮らしを良くするために私たちの持つ科学的専門知識を応用している、サイエンスを基盤にした企業です。社員やお客様だけでなく、地球上に住むすべての人のために、人々が安全で生産的な生活を送るよう支援することが、3Mにとって重要です。化学物質は、3Mの多種多様な製品を生産するために不可欠です。効果的で責任ある化学物質管理は、人々の安全な生活を支援する3Mの役割の一部です。

3M's Chemicals Management Policy (3Mの化学物質管理ポリシー) は、3Mとそのステークホルダーの変化、進化しつつある価値観を反映しています。このポリシーの下で、3Mは、製品および製造プロセスでの使用が制限され、または管理措置の対象となる化学物質を特定しています。

ハザードコミュニケーション

3Mの材料の潜在的な危険性を伝えることは、3Mのコア・バリュー（中核的価値観）を支え、3Mの材料に関してステークホルダーに行う、不可欠な継続的情報提供になります。これらの危険性および製品の化学成分を伝達するための手段には、安全データシート（SDS：safety data sheets）、製品ラベル、製品資料、使用説明書、輸送分類文書、および3M.comのIngredient Communication ウェブサイト（**Ingredient Communication website**）を含むその他のコミュニケーションツールがあります。

Ingredient Communications
ウェブサイトは、お客様と
消費者の皆さまに

400
件以上の製品の
さらに一層充実した
成分情報を提供しています。



このウェブサイトは、意図的に添加された成分および選択されている汚染物質を明示することにより、3Mの配合内容の透明性を提供します。製品に使われている各成分の機能が明確化されているため、お客様は特定の製品に化学物質が含まれている理由を正確に知ることができます。このウェブサイトには、各製品のSDSへの直接リンクもあります。ウェブサイトのページは簡単に印刷できるように設計されているため、チャネルパートナーは情報にすばやくアクセスして、職場で必須とされる要件を満たすことができます。

各事業部門には以下の義務があります。
「3Mの材料の潜在的な危険因子（ハザード）を評価し、当該危険情報を現地の言語で社員、請負業者、およびお客様に伝えるコーポレートプロセスを使用しなければならない。」
「適用されるすべての規制要件と3Mの基準およびガイドラインに準拠しなければならない。」
「材料の適切かつ安全な取り扱い、使用、廃棄に関して、情報に基づいた決定が行われるよう推進しなければならない。」

グローバルと日本の活動

持続可能な未来のために私たちが取り組まなければならない課題は、私たちの気を遠くさせますが、私たちは明確に課題を捉えています。課題は広範囲にわたっています。相互に絡み合っています。しかし、このような課題はサイエンスの助けを借りることで解決が可能です。私たち3Mには、サイエンスへの情熱を応用し、組織全体で協力して解決策を見つけるという独特の機会があります。

R&Dは3Mの心臓部です。私たちは、お客様と協力して継続的に科学研究と製品開発への投資を行っています。R&Dは有機的成長（organic growth）をけん引する独自の先端的製品を常時生み出す流れを推進しています。

実際2020年には

18.8億ドル

売り上げの

5.84%

近くを研究開発費に
投資しました。

3Mは、長年にわたって125,000件を超える特許を取得しており、これは当社のイノベーションを生む原動力の強さの証です。過去5年間で、3Mは年間平均4,000件の特許を取得しています。

60年以上にわたって堅固に維持されている私たちの**15%カルチャー**は、創造性をかき立て、リスクを取ることで、そして協働するきっかけを与えます。このカルチャーのもと、社員にはリスクを取り失敗から学ぶ自由が与えられています。この自由こそが科学的発見に不可欠なものです。社員は勤務時間の15%を関心のあるプロジェクトに費やすことができます。このようなプロジェクトやアイデアは、COVID-19の治療法を開発している研究者のために役立つ3M™ Emphaze™ AEX Hybrid Purifierなどの3M製品に結実する可能性があります。このフィルターは、新しいタンパク質ベースの治療法や薬の開発に必要な、細胞培養の不純物やDNAの除去に役立ちます。

COVID-19のパンデミックは、多くの点で日本を含む世界中の社員に影響を与えました。私たちは、COVID-19対策で使用される個人用保護具やその他のソリューションの生産を最大化することに注力しました。このような生産最大化と並行して、ラボへの入館を制限し、かなりの数の社員を在宅勤務に移行させる安全プロトコルを実施しました。新しい状況や新しい働き方に適応する社員のレジリエンス（回復力、適応力）のお蔭で、困難な時期にも3Mは前進することができました。



3Mイノベーションを活用して COVID-19パンデミックと戦う

COVID-19の発生の初期に、3Mのリーダーたちは、COVID-19との戦いの支援には、革新的なソリューションを創造するために他の企業や組織と協力する新しい方法を見つけることも含まれると気づきました。

様々な角度から課題に取り組むために私たちが取った行動の例については、[グローバル版の「How we're helping fight the pandemic」](#)（パンデミックとの戦いをどのように支援しているか）セクション中の、[「COVID-19 : A catalyst for unprecedented collaboration」](#)（前例のないコラボレーションの仲立ち）、そして「Our Customers」のセクションで紹介しています。

3Mは、COVID-19のパンデミックとの戦いを支援するために、グローバルで次のようないくつかの新製品を発売し、提供しています。

これらの製品の供給は、特定の地域に限定されている場合があります。

- 3M™ デイリーフェイスマスクは、再利用可能な布製の非医療用マスクです。一般的な日常生活における買い物、集まり、その他のフェイスカバーが必要な場所でのCOVID-19の感染を抑制する目的で使用します。
- 3M™ Disinfectant Cleaner RCT Concentrateは、EPA（米国環境保護庁）に登録された（対象：米国）消毒剤であり、COVID-19に特化したEPAのEmerging Pathogen Policy（新型病原体ポリシー）に適合しており、家庭内の接触の多い場所を消毒します。
- 3M™ TB Quat Disinfectant Ready to Use Cleanerは、硬い非多孔質表面上にあるCOVID-19の原因であるSARS-CoV-2をわずか60秒で除菌します。



- 3M™ ハンドサニタイザーには99.99%の除菌効果があります。さらに、保湿剤を含むため、手に滑らかさを与える使い心地です。

私たちは製造プロセスにも同様なイノベティブスピリットを用いました。事業所や研究所では身体的な距離を保ち、その他の強化された安全プロトコルを導入し、出張制限のため、複合バーチャルデバイスを使用して製造の問題を解決し、世界的な不足に対応するため手指消毒剤を製造しました。

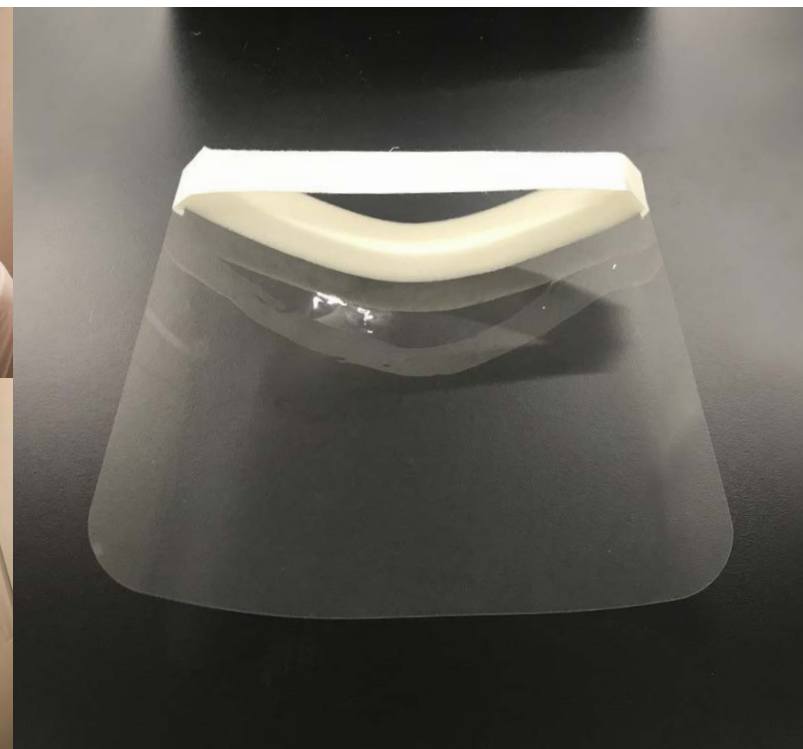
製造分野におけるイノベーションについての詳細、およびCOVID-19の研究促進のために世界中の大学に3Mが提供した助成金に関する詳細は、[グローバル版の「Communities」](#)のセクションを、概略については日本版の「インパクトを推進 — [Science for Community](#)」を参照してください。——これらすべては、「サイエンスでコミュニティに貢献」への私たちのコミットメントの一環として行われている活動です。

3Mジャパングループの事例 15%カルチャーを活用した3M™ フェイスシールド開発

「業務時間の15%程度を自分が興味をもつ分野の研究等に使っても良い」という15%カルチャーを活用して「3M™ フェイスシールド」が短期間に開発され、2020年6月に1万枚を厚生労働省に寄付しました。

きっかけは、新型コロナウイルスの感染拡大が進む中、医療現場で物資が不足するというニュースを聞き、「3M社員として何かできないか」と強く思う有志の集まりでした。事業部、部門の壁を越え、医療現場をよく知る販売関係者、製品開発や製造に関わっているエンジニアが結集し、アイデア出しから製品出荷体制の確立まで僅か3週間で実現しました。

製品設計に当たっては、感染拡大の影響で材料調達のサプライチェーンが滞ることを想定し、すでに社内で在庫の確保ができていた材料、そして医療現場で使用実績のあるものを厳選。製造の生産性を高めるため、製品構成を単純化し、部品点数は3個までに絞り込みました。開発した「3M™ フェイスシールド」の一般販売は予定しておらず、寄付品としてのみの目的で開発されましたが「製品性能や品質に妥協はできない」という強い思いから医療用製品事業部の専門家たちにより、通常の新製品と同等のレビューを実施して製品性能を担保しました。







ユニークで差別化された バリュー

3Mのパワーは、当社の基盤となる強みをお客様に結びつけるという手法にあります。これらの強みは、当社のテクノロジー、ものづくり、グローバル展開、およびブランドです。これらは私たちを一つの企業として特徴付けるものですが、これらを組み合わせることで単純な合計を越えるさらに大きなビジネスを構築します。3Mのパワーは、社内のすべてのビジネスにわたってパフォーマンスの差別化要因を深く理解することから生まれます。複数の市場で事業を展開している場合であっても、私たちがポートフォリオの中でどのように連携しているかがその要因に反映されています。

私たちのテクノロジーに関しては、それは独立したサイエンスであるだけでなく、深い知的財産に支えられたテクノロジーであり、他の複数のテクノロジーと組み合わせることで、お客様と一緒に、そしてお客様のためにユニークなことを行うことができます。

3Mはまた、私たちのものづくりの強みがあるからこそ存在しています。3Mでは製造にも知的財産を活用し、社内に製造拠点を保有していることで、市場では差別化され優位性を保っています。当社の知的財産の4分の1は製造部門にあり、その多くはトレードシークレットになります。このため、市場でより高品質、高性能かつ競争力のある製品を提供することが可能になります。

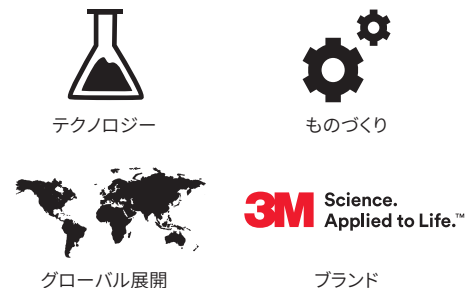
真のグローバル展開は、世界中の市場でプレゼンスがあるだけでは不十分です。ビジネスモデルを実行し、国際市場への参入を成功させるには、グローバル組織としてのスキルが必要です。世界中のほぼすべての地域と場所に当社の基盤となる強みとアプリケーションを展開するためです。当社はほぼすべての地域と国々で販売を行っており、社員とセールス、販売員の半数以上はアメリカ国外で働いています。ビジネス、地域、サイエンスの分野全体に融合とコラボレーションを行き渡らせることにより、新しいアイデアや製品をラボから工場へ、そしてあらゆる場所の家庭や企業といったお客さまに効果的かつ効率的に提供いたします。

そして、最後にブランドです。私たちのすべてのビジネスに対して価値を加えるのが「3M Science. Applied to Life.™」というブランドです。

これらの基盤となる強み（テクノロジー、ものづくり、グローバル展開、およびブランド）を最大限に活用することが、3Mの価値を真に創出するものになっています。

基盤となる強み

ユニークで差別化されたバリュー



チームコラボレーションの活用

3Mには、多様なアイデアと創造性を革新的なテクノロジー、ビジネス資産、製品プラットフォームに変えていく力があります。

3Mをユニークな企業としている多くの理由の一つに、コラボレーションへの傾注があります。私たちは、各ビジネスの垣根なく、テクノロジー横断的に、そして海と大陸を越えて互いに協力しています。

チームコラボレーションの好事例：

3Mテクフォーラム

これは3Mの技術コミュニティの1万人以上の社員のための、自己主導で自発的に組織化された協働のきっかけを作る場です。70年以上前に始まったテクフォーラムは、3Mの研究者たちが自身の記録をグローバルの仲間たちと共有し、3Mの**51のテクノロジープラットフォーム**を中心に協力し、3Mのイノベーションパイプラインを活性化する新しいアイデアを開発する機会を提供しています。このようなコラボレーションの取り組みが、毎年開催されるグローバルイベント、春のシンポジウム、表彰プログラム、および年間を通じて開催される多くのチャプターイベントで行われます。Global Product Stewardship、Green Chemistry、Climateは、Tech Forumで活動しているチャプターです。2020年、Tech Forumは、次のようなトピックを含む800を超えるイベントを紹介しました。3M Sustainability Conference、Sustainability in Healthcare、2020 Green Innovators Mini-Symposium、Climate Action Simulation、および循環型経済向けに設計された100%バイオ由来の素材。

3Mのほぼすべての技術者は、3Mテクフォーラムのネットワークを活用して問題を解決したり新しいソリューションを作成したエピソードを持っています。3Mコーポレート・リサーチ・システムズ・

ラボのスタッフサイエンティストであるグスタボ・カストロは、テクフォーラムのメンバーになることについて、「お菓子屋さんに行った子どものように3Mのテクノロジーの展示に大興奮します」と話しています。

日本のテクフォーラム活動：

日本においても、テクフォーラムは35年以上の歴史があり、技術者が自主的に、多種多様な活動を行っています。2021年は、夏にTechCon Japan、TechCon Asiaが実施されました。国境を越え、日本国内の技術者の交流だけでなく、アジア各国の技術者とも連携が活発に行われています。

また、3Mの製品をより分かりやすくアピールする方策を検討するイベントや、新入社員との交流の機会を実施するイベント、さらには全社員が参加可能な、事業部を横断した3M製品紹介イベントなど、創意工夫溢れるイベントが年間に渡って実施されています。

日本独自のチャプター活動も頻繁に実施されており、技術者たちの興味関心に合わせて気軽に参加することが可能な環境が整えられています。テクフォーラム活動を通じて、技術者たちは日々新しいアイデアを見つけ、育てていくことが可能です。

**3Mのほぼすべての技術者は、
3Mテクフォーラムの
ネットワークを活用して
問題を解決したり新しい
ソリューションを作成した
エピソードを持っています。**

イノベーションのために 構築されたプロセス

これまでになかった全く新しいプロセスは、主に3Mのコポーレートリサーチプロセスラボで開発されます。そしてこれらの新しいプロセスの開発は、当社の新技術導入 (NTI) フレームワークに取り込まれています。

- 調査：市場機会を特定する
- 認定：顧客のニーズを満たすために優れた製品コンセプトを特定する
- 展開：技術ソリューションを開発する

一方、新製品開発 (NPI) プロセスは、アイデアフェーズから発売開始まで製品を開発するための堅牢なフレームワークを提供します。

3MのNTIプロセスとNPIプロセスを組み合わせることで、すべてのグローバルビジネスにテクノロジーと製品の商品化のための共通のフレームワークが提供されます。これらのプロセスのすべてのフェーズで成果物が求められます。NPIの場合、サステナビリティバリューコミットメントが含まれます。テクノロジーと製品の作成に関して、会社全体で一貫したプラクティスを持つことは、ツールとベストプラクティスを共有し、プロジェクトポートフォリオを管理するための共通言語を提供し、リスク分析を支援します。

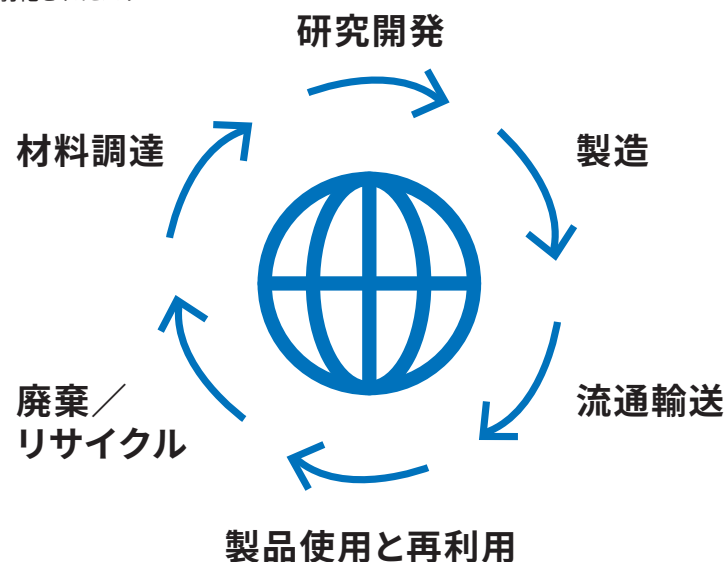
長期視点に立った 製品イノベーション

3Mは、製品ライフサイクル全体にわたって環境パフォーマンスを備えた製品の製造に取り組んでいます。また、サプライヤーやビジネスパートナーとも協力して、同じ目的に向かっていきます。これらの共同の取り組みにより、当社の長期的な成功が明確になり、保護され、保証されます。

ライフサイクルマネジメント (LCM) は、EHS (環境・健康・安全) および関連する規制上の考慮すべき事項が、3MのNPIプロセスを通じて3M製品の開発および商品化に確実に組み込まれるようにする、3Mのアプローチです。

ライフサイクルマネジメント

ユニークで差別化されたバリュー



クラス最高の製品スチュワード シップフレームワーク

3Mでのプロダクトスチュワードシップの責任はビジネス、エリア、およびコーポレートスタッフグループ内の部門にわたって幅広く共有されます。これら範囲全体にわたり個人個人が一体となって、私たちの社会的および物理的な環境を尊重するという3Mのコアバリューをサポートするために取り組んでいます。

2020年に、3Mの環境、健康、安全 (EHS) 組織が3Mの製品スチュワードシップ組織と統合して3M EHSおよび製品スチュワードシップ (EHS&PS) 組織になり、社員、コミュニティ、およびお客様の保護との整合性を持って取り組むことになりました。

3M EHSおよび製品スチュワード シップの組織には

400

人以上の製品 スチュワードがいて、

製品EHS、法規制順守およびサステナビリティのチャンピオンとして事業部門や日本を含む生産国に配置されています。

彼らは、当社の製品が3Mポリシー、政府規制、およびお客様から求められる要求を満たしている、または上回っていることを保証するよう支援をしています。



製品スチュワードシップのフレームワークは、事後対応ではなく予防対応です。

事前対応的なモードで日常の活動を監視するための体制と一貫性を提供します。例えば、先行指標を特定するための自己監査プログラムがあります。

3Mは2007年のインターナショナル部門のリージョンでのセルフアセスメントから始まり、2014年にグローバル監査を取り入れており、製品スチュワードシップ監査の取り組みの最先端にあります。これらの監査では、複数ある項目の中でも特に、製品の危険性とリスク評価、化学物質管理、ライフサイクル管理、およびコンシューマ製品の安全性を評価します。

これらの監査の目的は、各ビジネスが企業基準を満たしていることを確認し、ベストプラクティスをグローバルに共有することです。

私たちの監査プログラムは機敏であり、ライフサイクルアセスメントや人体実験の監査など、業務の改善や向上が進む外部基準への対応を求める当社のビジネス各部門の要求に応じて、専門的なテーマを深く掘り下げています。

2020年以降、3Mは、次の機能を追加して、EHSおよび化学物質管理監査プログラムにクラス最高の機能を持たせています。

- 事業所が独自のプログラムを監査できるようにするため、事業所の監査プログラムに事業所外の3Mの専門家が参加したり、3M以外の外部の専門家が3Mの事業所を訪問して監査するといった、新機能を追加
- コンプライアンスおよび管理システムの対象範囲を拡大
- 事業所排出量の物理的監視の強化
- EHS要件を決定してオペレーションに伝達するため、基礎となるプロセスの定型化された定期的評価を利用



日本国内の製品責任 (Product Stewardship) を 果たすために

製品を安全に製造するとともに、意図された用途での使用に対してリスクを低減し、安全性を確保すること——。3Mジャパングループでは、この考え方を「製品責任(Product Stewardship)」の基本と捉え、原材料の選択、設計段階から使用、廃棄に至る製品のライフサイクル全体において、化学物質が適正に管理されているか、製品の安全性が確保されているかなどを新製品導入および製品変更管理プロセスの手順に組み込みチェックしています。また、「製品責任担当者」を開発部門ごとに配置し、各事業部が適正に「製品責任」を果たしていく体制を整えています。

関係法令の情報収集と社内教育

製品に関連する法規制を遵守し、改正などにも速やかに対応するために、法規制の施行状況や改正情報などを製品責任担当者と随時共有し、各事業部の円滑な対応を促しています。また、製品関連法令の最新の要求事項を反映した教育資料を用いて、社内教育を実施しています。

化学物質管理基準

3Mジャパングループは、製品の製造に不可欠な化学物質の効果的で責任ある管理に取り組んでいます。

国内外の法令、環境問題に先進的に取り組むお客様からの要求、国際的研究機関の情報、3Mの化学物質に対するポリシーなど最新の情報を反映して化学物質を特定、評価を実施し、制限や管理をおこなっています。

製品に関する基本情報の開示

製品を安全にお使いいただくために、3Mジャパングループでは、安全データシート(SDS)、製品ラベルなどにより製品の化学成分と危険性、適用法令などの基本情報を提供しています。SDSについては全世界の3Mで共通のWeb検索システムでも入手可能です。

製品中の環境に影響を及ぼす可能性のある化学物質等に関するお問い合わせにも、迅速にお応えできる体制を構築しています。



ライフサイクルアセスメント (LCA)でお客様とイノベーション チームをサポートする

すべての3M製品に適用されるLCMプログラムに加えて、一部の3M製品にはライフサイクルアセスメント(LCA)も実施しています。3Mでは、ISO 14040に準拠したLCAは通常、工場での原材料入手から製品出荷まで(cradle-to-gate)を対象にしています。これは、使用されたり廃棄されるライフサイクルの段階が、お客様が当社の製品をどのように扱われるのかに大きく依存するためです。このことは多くの場合、お客様が環境への影響を理解して環境へのインパクトの削減に役立つ独特の機会を提供します。

また、複数の社内製造された材料については、ISO 14040準拠の原材料入手から製品出荷まで(cradle-to-gate)のLCAを完了します。これらの中間製品の評価により、当社の製品の製造に使用される主要なコンポーネントおよびプロセスの潜在的な環境への影響をよりよく理解することができます。当社のLCAチームは、製品開発の早い段階で社内の質問に答えるために、LCAスクリーニングも実施しています。



調達基準

サイエンスで循環型経済に貢献

- 2025年までに対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。

グリーン調達に関して

地球温暖化抑止や“持続可能な発展”の実現に向け、国内外で様々な指針の策定や法整備が進んでいます。

SDGs（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・ガバナンス）がその例です。

環境保全に対する社会やお客様の要求が厳しさを増す状況に対応するためには、3Mジャパングループだけでなく、お取引先の皆様と一体となり「グリーン調達」に臨むことが重要です。このため3Mジャパングループでは、原材料、外部から調達する製品、包装材、生産補助材の調達に関する「3Mジャパングループ調達基準書」を設けています。

内容は、各種法令等の改正などに伴い、適時改定しています。

3Mは「国連グローバル・コンパクト」（UNGC）に署名、加入し、UNGCが定める“人権保護”や“不当な労働の排除”など10原則、およびレスポンシブル・ビジネス・アライアンス（RBA）が求める“責任ある調達活動”などの行動規範を守ります。

サプライヤーにも同じく遵守を求めるために期待項目を「3Mサプライヤー責任規範」にまとめ周知を始めました。

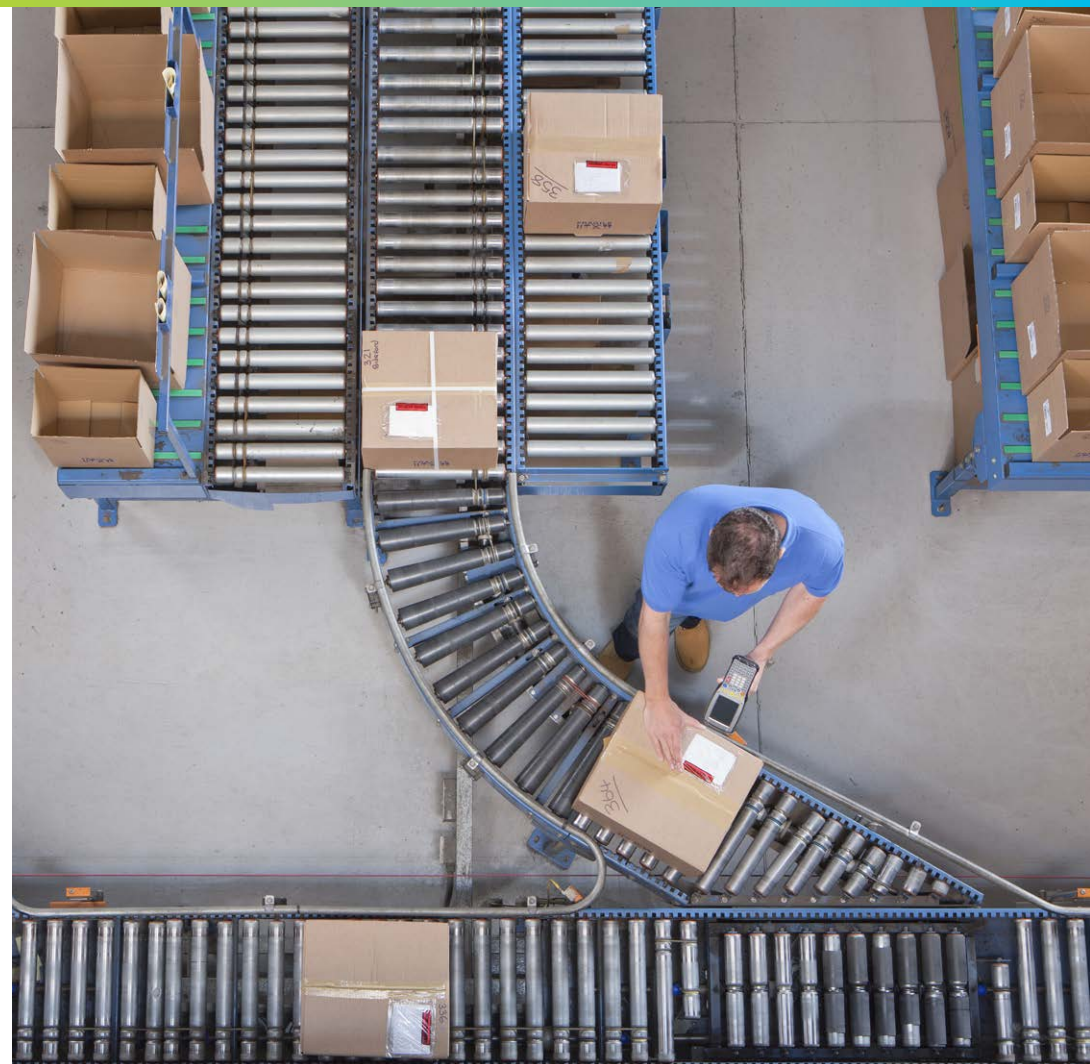
規範が守られていることを確認するためサプライヤー監査と、遵守が不十分な場合は是正を促す活動をいたします。

規範が定める各項目は労働、安全衛生、環境、倫理、マネジメントシステムの5分野に及びます。

紛争鉱物の調達に対する取り組み

2010年7月、4鉱物（タンタル、タングステン、錫、金）の使用有無について報告を促す法案が米国で制定されました。2019年には“コバルトが労働者の人権を守るかたちで採掘されているか”を監視することも加えました。

3Mジャパングループもこれらの制定に対して、3M社と協働し、同法に準じた紛争鉱物の調査と調達活動を行うこととし、その懸念がある際には、3Mジャパングループのサプライチェーンから排除する活動を開始いたしました。各サプライヤーがこの方針に従って調達活動をすることを期待するとともに、協働して問題解決にあたっていきます。



パルプ・紙製品調達方針

3Mでは以前から天然資源を保護し、持続的な環境保全を支援する責任を自覚しています。本方針のもと、持続可能な形で管理された森林から産出された製品を提供するよう努力するサプライ

ヤーから、紙製品を調達する責任を認識しています。パルプ・紙製品調達方針として、森林伐採現場までさかのぼることができる「トレーサビリティ」を有することを求めます。



私たちの製品

全ビジネスグループで サステナビリティ・バリュー・コミットメントを根付かせる

私たちのコミットメント

3Mサイエンスは私たちのビジネスを前進させる原動力です。私たちは、全社を横断した独自の方法でテクノロジーを使用し組み合わせる活用し、4つのビジネスグループをまたぐ新製品と新しい事業ラインを作り出しています。

2019年より、新規製品化プロセス上にある製品は100%サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を説明し、社会的義務のために当該製品がどのようにインパクトを起こせるかを示しています。これを正式に義務化したことにより3Mの多様なグローバル製品の製造パイプラインにサステナビリティが組み込まれることになりました。

3Mの新製品にSVCを用意する際に検討する項目としては、例えば、リサイクルの可能性、省エネルギーと水使用、責任ある調達、再生可能材料、製品の適切な再利用などが挙げられます。

環境およびまたは社会的問題の解決に寄与することがコア・パーパス(中核となる目的)である製品も含まれています。例えば、大気環境の改善、温室効果ガス排出量の削減、患者の転帰の改善、工業施設での作業安全の向上などです。

3Mの新製品の要件は、200か国にわたる3Mの事業活動とほぼ全ての国で販売する製品に世界的なインパクトをもたらします。また、お客様がサステナビリティゴールを達成するのにも役立ちます。

これは明日をもっと豊かにするためにサイエンスを活用するという私たちの志のもと、私たちが一歩前進することを意味します——私たちの戦略的サステナビリティフレームワークを通じ、また4つの各ビジネスグループを通じて進む一歩です。

グローバルの活動

2020年、私たちは322億ドル※の売り上げを達成しました。

2020年 売上高
322億ドル※



● コンシューマー	53.4億ドル
● ヘルスケア	83.5億ドル
● セーフティ&インダストリアル	118億ドル
● トランスポーテーション &エレクトロニクス	88.3億ドル

※4つのビジネスグループの他に、322億ドルにはデュアルクレジットの除外とコーポレートセグメントおよび非配賦ビジネスセグメントが含まれています。





セーフティ&インダストリアル

インダストリアル パフォーマンスの推進 ——より良く、より安全に、繋がりを維持して

私たちのビジネスの注力分野

当社のセーフティ&インダストリアルビジネスグループは何千もの革新的なソリューションと製品を提供しています。作業員、材料、機械をデータソースとデジタル的に繋げることで得られるデータを活用することで、お客様の生産性と品質結果の改善に寄与しています。私たちの製品は3Mのサイエンスを活用して世界中の作業員の健康と安全を守るお手伝いをしています。



日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- 3M™ コンクリート保水養生テープ 2227HP, 2227HPW
- 3M™ コンクリート給水養生用水搬送シート 1117
- 3M™ キュービットロン™ II レジンボンドクロスベルト984F
- 3M™ PST端末-EM T6PSシリーズ
- 3M™ VHB™ テープY-4800-12 建築パネル仕上げ用

詳細ならびにその他の製品については『[環境ソリューション製品カタログ](#)』をご覧ください。

2020年 売上高
118億ドル



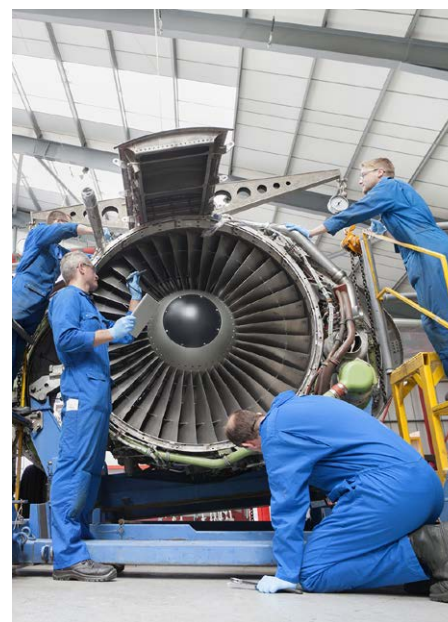
● 研磨材製品	11.8億ドル
● オート・アフターマーケット	11.0億ドル
● クロージャー アンド マスキング	9.93億ドル
● 電力マーケット	11.2億ドル
● テープ・接着剤製品	25.6億ドル
● 安全衛生製品	44.3億ドル
● ルーフィング・グラニュール	3.9億ドル

トランスポーターション&エレクトロニクス

交通とコネクティッドワールド(つながった世界)の進歩

私たちのビジネスの注力分野

当社のトランスポーターション&エレクトロニクスビジネスグループはお客様の不可能を可能にする取り組みをお手伝いします。当社社員は、お客様が最も困難な問題を解決することに役立つ新たな用途とテクノロジーを開発することで、イノベーションを主導しています。私たちは、データセンター、半導体、自動車の電装化など、エレクトロニクスの新たな高成長市場セグメントに新規のプラットフォームを構築する動きの最先端で活動しています。都市、家、車、人に動力を与えて繋げるソリューションを創造し、必要なところはどこでも——データへのリアルタイムアクセスを提供します。



日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- 3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルム マルチレイヤー NANO シリーズ
- 3M™ スコッチカル™ ペイントフィルム
- 3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート
- 3M™ グラスバブルズ
- 3M™ 液晶用輝度上昇フィルム DBEFシリーズ
- 3M™ 導電エンボスキャリアテープ

詳細ならびにその他の製品については『[環境ソリューション製品カタログ](#)』をご覧ください。

2020年 売上高
88.3億ドル



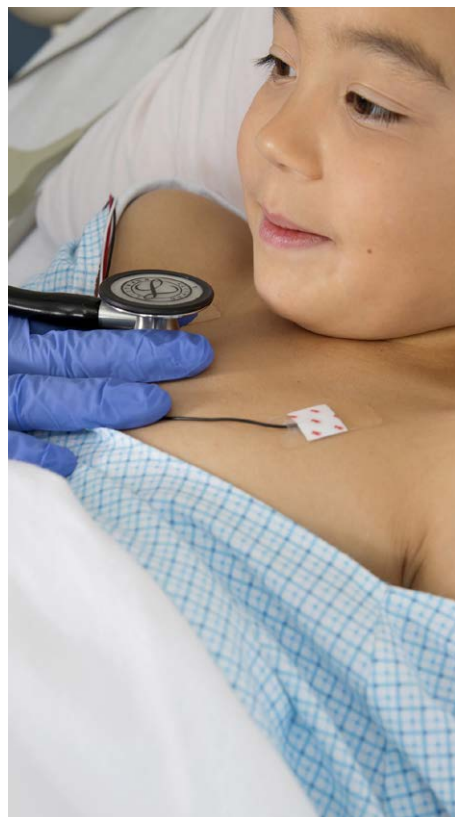
● 化学製品	10.4億ドル
● 自動車産業システム	16.1億ドル
● コマーシャル ソリューション	15.3億ドル
● 電子用製品	37.7億ドル
● トランスポーターション セーフティ	8.9億ドル

ヘルスケア

3Mサイエンスの力を活用して、
世界中の人々の健康改善をお手伝い

私たちのビジネスの注力分野

当社のヘルスケアビジネスグループは、課題を解決し健康改善を可能にするため、人、インサイト、サイエンス、テクノロジーを結びつけます。お客様が世界中の人々の健康を守り、改善することを可能にする実用的で実績に基づくソリューションを提供します。

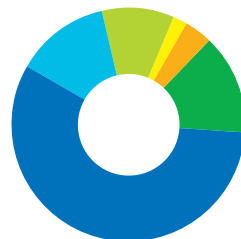


日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- 3M™ ペトリフィルム™ 培地
- リライエックス™ ユニバーサル レジン セメント
- 3M™ プリサイズ™ スキン ステイプラー S
- 3M™ Liqui-Cel™ 分離膜モジュール EXFシリーズ
- 3M™ LifeASSURE™ 除菌用PESメンブレン フィルター カートリッジ BDAシリーズ

詳細ならびにその他の製品については『[環境ソリューション製品カタログ](#)』をご覧ください。

2020年 売上高
83.5億ドル



- | | |
|--------------------|---------|
| ● ドラッグデリバリー | 1.46億ドル |
| ● フードセーフティ | 3.42億ドル |
| ● ヘルスインフォメーションシステム | 11.4億ドル |
| ● 医療用製品 | 47.9億ドル |
| ● 歯科用製品 | 10.8億ドル |
| ● フィルター製品 | 8.53億ドル |

コンシューマー

3Mを消費者の皆さまの心にお届けする

私たちのビジネスの注力分野

当社のコンシューマービジネスグループは、ポスト・イット®、スコッチ®、スコッチ・ブライツ™、フィルタレット™、ネクスケア™、コマンド™、フツロ™を含む3Mを象徴する主要ブランドを取り扱っています。これらの製品は、自宅や事務所の整理整頓をシンプルにし、暮らしを楽に、効率化します。幅広く様々な革新的な製品は、お客様がより健康で活発となるよう支え、家を清潔に、オフィスを整理整頓し、ビルの保守が行き届くよう支援します。



日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- スコッチ® メンディングテープ
- スコッチ® スティックのり
- ポスト・イット® ノート／ふせん 再生紙シリーズ まるごと再生紙キューブ
- エーワン™ ラベルシール 【プリンタ兼用】再生紙・ホワイト

詳細ならびにその他の製品については『[環境ソリューション製品カタログ](#)』をご覧ください。

2020年 売上高
53.4億ドル



- | | |
|----------------|---------|
| ● コンシューマーヘルスケア | 3.66億ドル |
| ● ホームケア | 10.7億ドル |
| ● ホームインブルーメント | 25.3億ドル |
| ● 文具・オフィス | 12.2億ドル |

3M、スコッチティント、リットマン、ベトリフィルム、スコッチ・ブライト、ダイノック、Emphaze、キュービトロン、VHB、スコッチカル、ダイヤモンドグレード、リライエックス、プリサイズ、Liqui-Cel、LifeASSURE、ポスト・イット、スコッチ、フィルタレット、ネクスケア、コマンド、フツロ、エーワンは、3M社の商標です。



3Mジャパングループ

<http://www.mmm.co.jp/sustainability/>

© 3M 2021. All Rights Reserved.

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

 **0570-022-123**

9:00～17:00／月～金（土日祝年末年始は除く）